

**甲南大学
甲南大学大学院**

ホームページ <http://www.konan-u.ac.jp>

◎**岡本キャンパス**

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL (078) 431-4341 (大代表)

◎**西宮キャンパス**

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町8-33
TEL (0798) 63-5741

◎**ポートアイランドキャンパス**

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-20
TEL (078) 303-1457

甲南高等学校・中学校

〒659-0096 兵庫県芦屋市山手町31-3
TEL (0797) 31-0551 (代表)

ホームページ <http://www.konan.ed.jp>

甲南大学ネットワークキャンパス東京

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー10F

TEL (03) 6266-9520

ホームページ <http://www.konan-u.ac.jp/tokyo/>

**ウェブサイトによる
「教育情報」の公開について**

本学では、平成23年4月1日に施行された「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」に伴い、ウェブサイトにて積極的に「教育情報」を公開しています。甲南大学ホームページの「公開情報」をご覧ください。

発行 平成30年6月

この冊子に関するお問い合わせは、
以下までお願いいたします。

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1

学校法人甲南学園 総務部総務課

TEL (078) 431-4341 (代)

FAX (078) 435-2548

e-mail sohmu@adm.konan-u.ac.jp

個性を力へ。

KONAN

平成29年度 事業報告書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで





CONTENTS

学校法人甲南学園／平成29年度事業報告書

はじめに	1	II 財務の概要	13	III 法人の概要	21
■ 甲南学園のあゆみ		■ 平成29年度決算の概要		■ 名称	
■ 甲南学園の構成		■ 資金収支決算の概要		■ 法人設立の年月日	
		■ 資金収支計算書（学園総括）		■ 設置学校	
		■ 活動区分資金収支計算書（学園総括）		■ 役員	
		■ 繰越支払資金の流れ		■ 土地と建物	
		■ 事業活動収支決算の概要			
		■ 事業活動収支決算書・構成比率（学園総括）			
		■ 事業活動収支（旧：消費収支）決算の推移（学園総括）			
		■ 平成27年度～29年度決算の推移			
		■ 主な施設・設備の整備状況（学園全体）			
		■ 貸借対照表			
		■ 財務状況の推移（学園総括）			
		■ 財務比率の推移（学園総括）			
Highlight 2017					
01 甲南学園創立100周年記念事業の推進	3				
02 甲南大学の教育改革	5				
03 高等学校・中学校	6				
04 戦略事業の展開	6				
I 事業の概要	7				
■ 大学・大学院	7				
■ 高等学校・中学校	11				
■ 法人	12				

大学・大学院・高等学校・中学校基本データ

- 学位授与
- 留学者数
- 入学試験状況
- 大学（学部学生）の就職状況
- 学生・生徒数
- 卒業生累計数
- 専任教職員数
- 事務組織図



学校法人甲南学園
理事長 **吉沢 英成**

甲南大学、甲南高等学校・中学校を設置する甲南学園は、大正8(1919)年の旧制甲南中学校の開設にさかのぼります。甲南を支える大きな精神的支柱である創立者の平生飢三郎先生は、

本校ハ学校教育ノ現状ニ満足セザル有志ノ者共ガ集マツテ、知育偏重ノ弊ヲ避ケ、「人格ノ修養」「健康ノ増進」ヲ第一義トシ、「個性ヲ尊重シテ天賦ノ特性ヲ啓発スベク、知的教育ヲ施サン」トノ主旨ヲ以テ創立イタシマシタ

高等学校第1回卒業式／大正15(1926)年

と述べています。本学園は、今後も、この気概と品格ある平生精神をもとに、教育・研究の質を高め、本学園の社会的使命を達成することを目指しています。

はじめに

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

本学園の平成29年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

高度情報技術が日進月歩で進化し産業活動のなかに定着し、日常生活にも深く浸透するなか、地球環境問題は深刻化し、偏った人口動態問題が顕在化し、世界の政治・経済は“混沌の時代”を迎えています。わが国がこうした状況にどう対応・適応していくか国としての真価が問われており、それだけに教育へむけられる期待も、そして教育に負託される課題も極めて大きいと言えます。

100年にわたり人物教育の率先を謳って多彩な才幹を輩出してきた甲南学園は、この時代・社会からよせられる期待に応え、負託された課題を担うべく、大学にあってはミディアムサイズの総合大学のメリットを最大限活かし、少人数教育の実践、共通教育(高大接続、導入教育、人物教育、社会接続)のさらなる充実をはかり、融合型グローバル教育、地域連携をなお一層推進することで教育の質の高度化を実現してきています。新装なったKONAN INFINITY COMMONS (iCommons)はこの質の高度化に拍車をかけています。また研究活動の質の高さを示す国際指標において日本の中で第3位にランクされたことをはじめ、研究活動が直接・間接交々に教育へ質の高いインパクトを与えてきています。高等学校・中学校にあっては徳・体・知の高いバランスを育ててきた伝統ある中堅私学としてフロントランナー・アドバンストの2コース制、両コースにわたる実践的グローバル教育、世界で活躍中のOBによる意欲喚起スイッチ・オンのレクチャーなどにより、甲南ならではの高いレベルの成果を目標に邁進しています。

甲南学園は、学園創立100周年記念事業を着実に進めてきた平成29年度を踏まえ、甲南新世紀KONAN Higher Quality教育の展開を主軸として力強く躍動してまいります。皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

甲南学園のあゆみ

個性尊重の理念を掲げて開学。100周年へむけ、その独自の教育を深め、究めようとしています。



学園創立者
平生 飢三郎

平生飢三郎は、慶応2(1866)年武門に生まれ、東京海上火災保険をはじめとする損害保険業界の近代化に貢献、川崎造船所を再建するなど実業界で広く活躍しました。甲南病院の設立など社会事業にも深く関わり、政治においては、広田内閣の文部大臣として義務教育の年限延長、師範教育の改善を強く提唱しました。教育理念として、「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重し、各人の天賦の特性を伸張させる」を掲げ、甲南中学校、さらに7年制の甲南高等学校を創立しました。

- 大正 7(1918) 財団法人甲南学園 私立甲南中学校設立認可
- 大正 8(1919) 私立甲南中学校開校
- 大正12(1923) 7年制甲南高等学校開校
- 昭和23(1948) 新制甲南高等学校に移行
- 昭和26(1951) 甲南大学設置認可、甲南大学開学、文理学部設置
- 昭和27(1952) 経済学部増設
- 昭和32(1957) 文理学部を文学部と理学部に分離
- 昭和35(1960) 法学部・経営学部増設
- 昭和38(1963) 甲南高等学校・中学校が岡本から芦屋市に移転
- 昭和39(1964) 大学院人文科学研究科、自然科学研究科設置
- 昭和40(1965) 大学院社会科学部増設
- 平成 3(1991) トゥレーズ甲南学園(フランス甲南学園トゥレーズに校名変更)高等部・中等部を開校
- 平成13(2001) 理学部を理工学部に名称変更
- 平成14(2002) 経済学部・経営学部EBA総合コースを開設(平成25年廃止)
- 平成15(2003) 先端生命工学研究所(FIBER)設置
- 平成16(2004) 大学院法学研究科(法科大学院)増設
- 平成18(2006) 大学院ビジネス研究科(会計大学院)増設(平成25年会計専門職専攻として社会科学部研究科のもとへ移設、平成28年廃止)
- 平成20(2008) 知能情報学部増設
- 平成21(2009) マネジメント創造学部増設(西宮キャンパス新設)先端生命工学研究所移設・フロンティアサイエンス学部・同研究科増設(ポートアイランドキャンパス新設)フランス甲南学園トゥレーズ中等部閉校
- 平成25(2013) フランス甲南学園トゥレーズ高等部閉校

甲南学園の構成

設置する学校・研究科等(平成30年3月31日現在)

甲南大学・大学院			
学部 学科	文学部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本語日本文学科 ■ 社会学科 ■ 歴史文化学科 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 英語英米文学科 ■ 人間科学科
	理工学部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 物理学科 ■ 機能分子化学科 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生物学科
	経済学部	■ 経済学科	
	法学部	■ 法学科	
	経営学部	■ 経営学科	
	知能情報学部	■ 知能情報学科	
	マネジメント創造学部	■ マネジメント創造学科	
	フロンティアサイエンス学部	■ 生命化学科	
大学院	人文科学研究科	<ul style="list-style-type: none"> 修士課程 ■ 日本語日本文学専攻 ■ 英語英米文学専攻 ■ 応用社会学専攻 ■ 人間科学専攻 	<ul style="list-style-type: none"> 博士後期課程 ■ 日本語日本文学専攻 ■ 英語英米文学専攻 ■ 応用社会学専攻 ■ 人間科学専攻
	自然科学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■ 物理学専攻 ■ 化学専攻 ■ 生物学専攻 ■ 知能情報学専攻 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 物理学専攻 ■ 生命・機能科学専攻 ■ 知能情報学専攻
	社会科学部研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経済学専攻 ■ 経営学専攻 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経営学専攻
	フロンティアサイエンス研究科	■ 生命化学専攻	■ 生命化学専攻
専門職大学院	法学研究科	■ 法務専攻(法科大学院)	
センター 研究所 図書館	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国際言語文化センター ■ キャリアセンター ■ 先端生命工学研究所 ■ 国際交流センター ■ フロンティア研究推進機構 ■ ビジネス・イノベーション研究所 ■ スポーツ・健康科学教育センター ■ 図書館 ■ 教育学習支援センター 	<ul style="list-style-type: none"> ■ カウンセリングセンター ■ 総合研究所 ■ 共通教育センター ■ 教職教育センター ■ 地域連携センター ■ 人間科学研究所 ■ 統合ニューロバイオロジー研究所 	

甲南高等学校・中学校



01 甲南学園創立100周年記念事業の推進

■ iCommons の竣工

平成29年9月19日、岡本キャンパスに待望のKONAN INFINITY COMMONS（愛称：iCommons）が竣工しました。課外活動のための部室やホール、学生食堂だけではなく、フレキシブルに使える多目的スペースやカフェ、ブックカフェなどが複合的に設けられたことに加え、設計段階から学生、教職員の間でコンセプトや活用方法がさまざまに議論されてきたこともあり、オープン当初からキャンパスの「結節点」として、これまでにない賑わいを見せています。

iCommonsでは、学生の課外活動、教員の教育研究活動はもとより、高大連携イベント、各種同窓会、地域連携イベント、就職活動のためのセミナーなども開催され、甲南教育に広がりや深みを加え、学生に大きなインパクトを与えています。

また、学生を中心としたiStaffによる活動がiCommonsの活用を促進し、職員の企画・実施によるキッズフェスティバルが地域や学内外で高く評価されるなど、関係者の取り組みも活性化し、学園創立100周年にふさわしいムーブメントとなりました。

さらにiCommons竣工に合わせて装いを新たにした西門周辺では、伝統あるキャンパスのイメージを活かした新しい空間も創造されています。



外観



Agora (エントランス)



Hirao Dining Hall North (食堂)



キッズフェスティバル

■ 白川台キャンパスの完成

学園創立100周年事業の一つである白川台キャンパスセミナー・スポーツ施設拡充事業は、平成27年度に1期工事でセミナーハウスの宿泊研修機能を整備・拡充、平成28年度の2期工事では体育館を改修するとともに遊歩道やピオトープなどの整備を行ってきました。平成29年度は3期工事として、グラウンドの人工芝化、馬術部厩舎・馬場の建設、屋外バーベキュー施設の整備等を行い、キャンパス整備を完了しました。



全景



厩舎

また、白川台キャンパスと岡本キャンパスとの間をつなぐシャトルバスのダイヤを見直したほか、特に体育会等の合宿に向けて食事のメニュー改善を図ったこともあり、平成29年度は利用者数が延べ約6,800名に達し、開設初年度から大幅な増加となりました。

周辺地域とのつながりも緊密になっており、学生による夏祭り・清掃活動・防災訓練への協力、法科大学院が主体となった無料法律相談・各種セミナーや教員による公開講演会等を実施し、本学のプレゼンスを高めています。

日常のキャンパスとは異なる環境に身を置き、学生同志、また学生と教職員が寝食を共にすることは高い教育効果が期待できます。白川台キャンパスは人物教育のクオリティ・リーダーをめざす甲南大学のニーズに十分対応できる機能を持つにいたりました。

■ 学園史資料展示室のリニューアル

甲南学園同窓会と旧制甲南高等学校卒業生の皆様の支援も受け、1号館1階エントランスホールの学園史資料展示室を全面的にリニューアルしました。新しくなった学園史資料展示室では創立者平生鈺三郎の生涯とその功績、甲南学園100年のあゆみを分かりやすく展示しているほか、現在の甲南大学・甲南高等学校・甲南中学校のルーツである旧制甲南中学校・高等学校を重要なテーマと位置付けて重点的に紹介しています。



平生鈺三郎によって掲げられた個性尊重の教育理念に触れることができ、100年前から今に息づく甲南の校風と伝統を、そして将来への息吹を感じ取ることができる空間となりました。

■ 学園創立100周年記念事業募金

平成27年10月から開始された学園創立100周年記念事業募金（平成32年9月30日まで）も2年6カ月が経過しました。平成29年度も多方面に向けて募金依頼を実施し、卒業生、保護者をはじめ、同窓会、法人・団体の皆様からのご援助により、平成29年度末で募金目標額20億円に対し、約11億円のご芳志を賜りました。平成29年度には、100周年のシンボルとなる建物「KONAN INFINITY COMMONS」が完成し、募金活動にも一層の弾みがつきました。今後も募金目標額20億円の達成に向け、継続的な働きかけを図ります。

■ 募金計画概要

● 募金対象事業

- ①甲南新世紀教育の展開『校友会館等再開発を新しい教育機能で包むKONAN INFINITY COMMONS建設、“顔がわかる”少人数教育・キャリア創生共通教育・融合型グローバル教育などKONAN Higher Quality教育の確立』
- ②甲南大学白川台キャンパス セミナー・スポーツ施設拡充事業
- ③高等学校・中学校 100周年記念グローバル教育推進・教育環境整備事業
- ④100周年記念“わがくるま 星につなぐ”甲南の星 奨学金給付事業

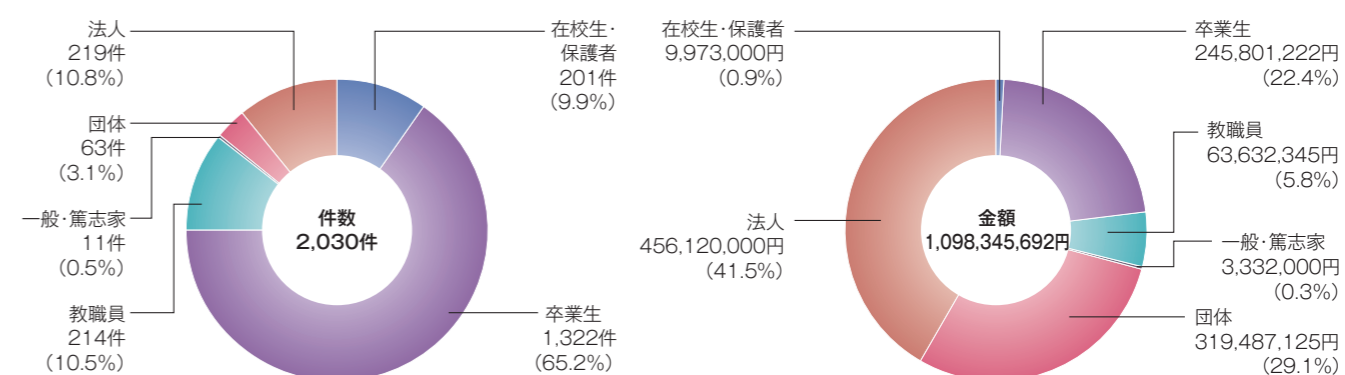
● 事業規模 100億円

● 募金目標額 20億円

● 募金期間 平成27年10月1日～平成32年9月30日（5年間）

■ 100周年記念事業募金申込状況（平成30年3月31日現在）

	件数（累計）	件数比率	金額（累計：円）	金額比率
在校生・保護者	201	9.9%	9,973,000	0.9%
卒業生	1,322	65.2%	245,801,222	22.4%
教職員	214	10.5%	63,632,345	5.8%
一般・篤志家	11	0.5%	3,332,000	0.3%
団体	63	3.1%	319,487,125	29.1%
法人	219	10.8%	456,120,000	41.5%
合計	2,030	100.0%	1,098,345,692	100.0%



02 甲南大学の教育改革

■ 教学新機軸の推進

人物教育率先の理念をより高いレベルで実践し、世界に通じる研究力を教育や地域連携に積極的に生かし、新たな時代においても持続的に発展できる大学となるために、「甲南新世紀ビジョン」を掲げ、その実現に向けた重要な施策として位置付けた以下5つの教学新機軸に取り組んでいます。

- (1) “顔がわかる”少人数教育の推進
- (2) アクティブ・ラーニング（能動的学習）の推進
- (3) 共通教育改革の推進
- (4) 融合型グローバル教育の推進
- (5) 地域連携・ボランティア教育の推進

2年目となる平成29年度においては、大学の学びへのスムーズな導入を図る「導入共通科目」の新設や「基礎共通科目」の再編等の共通教育改革の推進、英語でビジネスを学ぶ科目「グローバルコミュニケーション」の正課授業化や各種留学制度の充実、正規留学生の受入れなど融合型グローバル教育の推進、岡山県、加古川市、和歌山市等との協定締結を進めるとともに、各自治体プロジェクトへの参加拡大やボランティア・地域連携科目の充実等の地域連携・ボランティア教育の推進など、「ミディアムサイズの総合大学」としての特色を一層発揮するためのカリキュラムや教育プログラムの整備に取り組みしました。

また、授業規模の適正化やS/T比の改善への継続的な取組み、学生の学びや活動を記録・可視化する「学修ポートフォリオ」の実践とシステム化の推進、成績評価では表れにくい学生の力を評価認定する制度である「KONANサーティフィケート」の活用促進と発展に向けた検討など、新世紀ビジョンに掲げる「人物教育のクオリティ・リーダー」をめざした取組みも着実に進んでいます。

■ Active-Interactiveキャンパスの整備、魅力化の推進

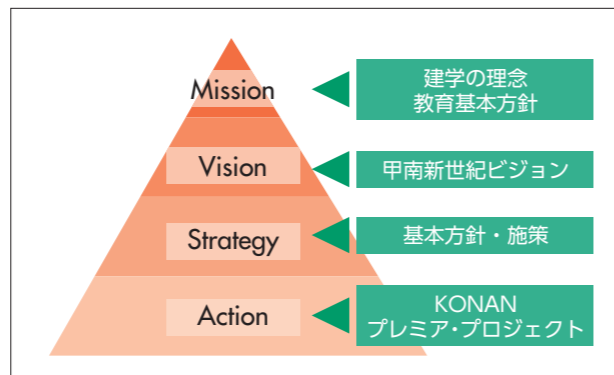
平成29年9月に竣工したiCommonsは、食事や部活動等の学生生活の場としてだけでなく、各種施設や自由な空間を活用した交流、発表、研究、創造、探究などのさまざまな活動が並行して行われています。また、オープンキャンパスなどの大規模行事から、小規模な会合まで多様なイベントが数多く開催され、キャンパスの結節点として、そしてここに集う多様な人々の融合の場として盛んに活用されています。さらに、グローバルゾーンやサイエンス・ラーニングコモンズなど、これまでに整備された施設も一層活性化しており、Active-Interactiveキャンパスの名にふさわしい魅力的な環境が実現しています。

■ 教育改革の基盤整備（内部質保証システムを構築・運用）

平成30年度から開始される第3期認証評価において、内部質保証が一層重視されることに備え、「甲南大学内部質保証規程」を制定し、本学における内部質保証の体制、仕組み等を整備しました。また、全学部の新入生を対象に社会で必要とされる汎用的能力を測る「ジェネリックスキル測定」の実施、教育活動や正課以外の活動をはじめとする各種データを分析可能なかたちで可視化するIRレポートの整備等にも取り組むなど、内部質保証システムの実践的運用への準備を進めました。

■ KONANプレミア・プロジェクトの推進

全学および各学部・部局の特色ある方針・計画を実践・可視化するとともに、これらを組織横断的に融合し、本学の新たな魅力を創出することを目的としたKONANプレミア・プロジェクトは、平成29年度で第3期目を迎え、9つのプロジェクトのもとに64のサブプロジェクトを展開しました。これらの取組みからは、本学の地域連携の軸となる関西湾岸ネットワークの構築や、約5人に1人の割合で学生が海外留学する状況を実現した段階別留学制度の拡充、高い就職実績を示し続けるキャリア支援活動の充実、高校訪問活動の強化や高大接続のユニークな取組み「リサーチフェスタ」の実現、特色ある研究や高い研究力を可視化し教育に生かすResearch & Educationプロジェクトの推進など、本学の個性と活力を生み出すさまざまな成果が生まれています。



リサーチフェスタに集う高校生たち

03 高等学校・中学校

「フロントランナーコース」「アドバンスコース」は新設から4年目を迎え、「フロントランナーコース」では中学2年生～中学3年生にかけて理系の素養や国際舞台で通用する力を養うことを目的に「サイエンスラボ」「グローバルラボ」を実施、「アドバンスコース」では「グローバル・ファウンデーション（国際教養プログラム）」が高校1年でも実施され、中学3年～高校3年までの4年間のグローバル教育の流れが確立しました。また、平成28年度に引き続き、各界の第一線で活躍されている著名人を招聘した講演会「ソフィア」による人物教育を実施しました。第1回はアルピニストの野口健氏より「あきらめないことそれが冒険だ」という演題でご講演いただき、第2回は小林製薬代表取締役副会長の小林豊氏より「創造と革新」という演題で企業経営の極意を学びました。

一方、アドバンスコースでは、高校1年生を対象にビジネスリーダー育成に向けた「キャリアデザイン」を配置し、キャリアについての基礎を学ぶとともに、OB企業3社、新阪急ホテル、積水ハウスを訪問し、会社の経営方針や仕事のやりがい・こだわりなどについてお話をうかがいました。また、プロジェクト型学習の企業インターワークとして、日本航空、大塚製薬、ローソン、森永乳業、江崎グリコ、KDDIから課題をいただき、各社の課題に対して企画提案を行いました。このうち日本航空部門と大塚製薬部門において第8回「トゥワイス・アワード全国大会」に出場しました。

さらに、本学園が兵庫県と地域創生に係わる包括連携協力協定を締結したことを受けて、兵庫県、東京海上日動火災保険、神戸新聞社による地域創生連携セミナーを開催。第1回は「平生鈺三郎の精神と100年のDNA I'm from KONAN」と題し、平生鈺三郎研究者の高田博次氏（元東京海上日動火災保険）に、第2回は「将来の展望と将来の自分」をテーマに、兵庫県、東京海上日動火災保険、神戸新聞社にリレー形式での講演を行っていただきました。

04 戦略事業の展開

■ 先端生命工学研究所（FIBER）の第Ⅱ期プロジェクト4年目の研究推進

平成26年度に開始した第Ⅱ期プロジェクトでは、「FIBER第Ⅱ期計画」に基づき、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」（平成26年度から5年間）に採択された研究「核酸の非標準構造を標的とした細胞応答の化学的制御技術の構築と先制核酸医工学への展開」を推進するとともに、文部科学省科学研究費助成事業 新学術領域研究「分子夾雑化学」（平成29年度から5年間）に新規採択され、国内外の機関と連携した研究を推進しました。

これらの研究成果は、新聞紙面にも多く取り上げられ、アメリカ等での世界的な学術雑誌に掲載されたとともに、国際会議やシンポジウムで招待講演を行うなど、国内外で高く評価されました。

また、研究成果の還元としては、女性研究者にフォーカスした一般公開講演会や大学院生・学部生、中学生・高校生等、幅広い世代を対象にした講演会・イベントを多数開催しました。

平成28年にスロベニア国立化学研究所（NIC）・スロベニア国立NMRセンター（SLONMR）との間で締結した学術交流協定、SLONMRとの日本学術振興会における二国間共同研究事業推進のため、先制核酸医工学をテーマにした共同研究を継続展開してきました。さらに、国際シンポジウム「FIBER国際核酸サミット2017（FIBER International Summit for Nucleic Acids 2017: FISNA 2017）」を開催し、「学術交易拠点としてのKONAN FIBER」の国際的プレゼンスを向上させました。

「核酸化学はKONAN FIBER」という研究ブランドを確立するために、国際共同研究を中心に、「生命の基盤的現象に関わる核酸の機能を解明し、その機能を化学的に活用して産業に還元する」研究を展開し、学術的、社会的に価値のある研究成果を得ることができました。

■ 法科大学院の第3期プロジェクト4年目の展開


司法試験予備試験の定着、政府・文部科学省による法科大学院に対する厳しい改革要求（当初開設された74校が募集継続39校へと激減）、司法試験合格数の縮減（年間3,000名目標から1,500名へ）等などロースクールの制度環境が厳しさを増すなか、12回目となる平成29年司法試験に6名が合格。これまで、現役院生のまま予備試験を経て司法試験にも合格した4名と、法科大学院修了資格での合格者126名との総合計は130名。修了生の茨木市長・福岡洋一氏（弁護士）は自治体をリードする甲南ローヤーとして活躍中です。『昼夜開講・秋入学』も定着し、西宮キャンパス（CUBE）ではICT活用「テレビ会議システム」で岡本教室の夜間授業を遠隔で受講でき、主に有職社会人が学ぶ「西宮教室」を実施中。平成30年度向けに実施した入学試験でも定員20名に対して、有職社会人を中心に23名が入学することとなったことも文部科学省から評価を得ています。

I 事業の概要

大学・大学院

1 教育

(1) “顔がわかる”少人数教育の推進 〔教学新機軸(1)〕

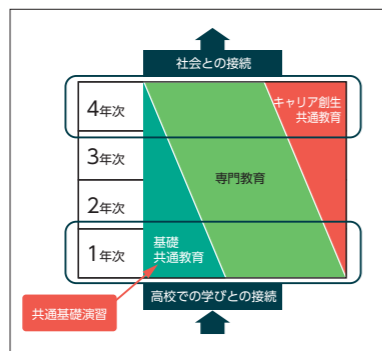
平成28年度に引き続き、大規模授業の少人数化などの授業規模最適化を推進。学びや活動を記録・可視化する「学修ポートフォリオ」を1・2年生に配信し、活動の振り返りコメント等を自

 KONANサーティフィケート授与式
 身で入力することで活用を促進。成績評価に表れにくい力を評価認定する「KONANサーティフィケート」制度では、「グローバル」、「ライブラリ」、「ボランティア」、「スポーツ」の4つのカテゴリーを合わせて、前年度比1.4倍増となる45名を認定。

(2) アクティブ・ラーニング(能動的学習)の推進 〔教学新機軸(2)〕

5号館3階のサイバーライブラリにあるラーニング・commonsや7号館1階のサイエンス・ラーニングcommonsの整備や内部の充実等を図り、9月のKONAN INFINITY COMMONS (iCommons) の竣工もあわせ、学生が主体的・能動的に学ぶための環境を増強。また、平成27年度から継続している学習支援活動として、グループワークにおけるファシリテーションやライティング・サポートを行うラーニングアシスタント(LA)を活用した授業をより一層充実させた。これらアクティブ・ラーニングの推進を通じ、さらなる教育の質的向上を図った。

(3) 共通教育改革の推進〔教学新機軸(3)〕

学びの視点を増やし、柔軟な思考を育成して将来の可能性を一層広げるため、共通科目の充実を推進。学部横断型で行う初年次の共通基礎演習は、7学部の1年生605名(約27.2%)が履修。また、「キャリア創生共通科目」38科目を開講し、キャリア関連科目の一括管理と体系整備を共通教育センターが行うことで、社会で活用できる能力の養成を有効かつ効率的に実践。



(4) 融合型グローバル教育の推進〔教学新機軸(4)〕

グローバル人材の素養である①チャレンジ精神、②多文化理解力、③タフネス、④主体的行動力、⑤英語によるコミュニケーション能力を涵養し、どの学部に入學しても専門科目を学修しながら外国語や国際社会に関する理解などを身につけることのできる「融合型グローバル教育」を推進。ペリリッツ、ECCとの提携によるBE(ビジネス英語)プログラムを推進。エリアスタディーズを拡充。海外の提携大学とのダ

ブル・ディグリー制度の検討、カナダフランス語圏の大学との協定を締結。グローバルゾーン“Porte”を充実・発展。

(5) 地域連携・ボランティア教育の推進 〔教学新機軸(5)〕

「地域連携センター」を中心に、学生による地域連携やボランティアの諸活動を正課・課外の教育のなかに明確に位置付けて展開。「キャリア創生共通科目」の本格始動に伴い、「実践ボランティア」「地域を知る」を実施。また次年度に向け、地域連携科目の卒業単位化や、基礎共通科目として「地域連携入門」等を充実。

(6) 教員養成体制のさらなる充実

教育職員免許法改正への対応に向けた「教育職員養成課程カリキュラム委員会」の機能を活性化し、全学的なカリキュラムを再編、指導体制を整備。「教職実践演習」を有効化、キャリア支援を拡充。

(7) 公認心理師養成カリキュラム等の検討

公認心理師法の成立・施行に伴って公認心理師養成カリキュラムや運営体制等を検討。公認心理師養成センターの設置を決定。

(8) FD活動等による教育力強化と学修支援体制の充実

各学部・研究科・センター等において、教育活動の一層の向上を目的として、教員間の授業参観や、意見交換、授業改善アンケート等を実施。また、全学レベルのFDの取り組みとして、能動的学習を推進するためのリーダーを養成するセミナーに教員が参加し、FD講演会を通じてその成果を教員に還元するなど、教育方法の充実に向けた取り組みを実施。

(9) 自己点検評価・認証評価への対応

平成25年度認証評価(適合)指摘事項への改善完了と「改善報告書」を提出。第3期認証評価に向けた新たな「大学基準」に基づく課題を明確化し、自律的な内部質保証を継続的・安定的に行い得る組織体制を整備すべく「甲南大学内部質保証規程」を制定。法科大学院認証評価に係る自己点検・評価報告書を日弁連法務研究財団に提出。

(10) 各種補助金制度への対応強化

私立大学等改革総合支援事業への対応を強化し、本学の事業内容や計画・方針に適合するタイプ1「教育の質的転換」、タイプ3「産業界・他大学等との連携」、タイプ5「プラットフォーム形成」が採択。経常費補助金特別補助において、本学の事業内容や計画・方針に適合する項目へ申請し、有意な取り組みに対して補助金を獲得。

(11) スポーツ推薦入学者への教育支援

基礎体育学演習特別クラスの編成、クラブ活動や学生生活を自らマネジメントする力をつけることを目的とした特別カリキュラムの実践、学業とスポーツの両立を目指し、実践するために学生部・スポーツ強化支援室がスポーツ推薦入学者と定期面談を実施。

2 研究

(1) 学内の各種研究助成による研究支援

「平生太郎基金」「甲南学園教育・研究基金」等の運用収入を活用した研究、出版、外国人研究者の招聘等事業への助成。

① 平生太郎基金科学研究奨励助成

申請者	研究課題	研究助成期間	助成金額(千円)
杉本 直己 先端生命工学 研究所 教授 (生命分子化学)	甲南DNAドックによる 疾患リスクの革新的早期 診断システムの構築	平成25年4月1日 ～ 平成30年3月31日 (5年間)	15,000 (期間5年/ 総額約1億円)
久原 篤 理工学部 教授 (生物学)	動物の温度適応の分子 神経メカニズム	平成29年4月1日 ～ 平成30年3月31日	5,000
西村 いくこ 理工学部 教授 (生物学)	バイオテクノロジー研究 拠点形成：オルガネラ工 学による有用植物の創成	平成29年4月1日 ～ 平成30年3月31日	12,000
木本 篤志 理工学部 准教授 (機能分子化学)	メタロ有機エレクトロ ニック材料群の創製	平成29年4月1日 ～ 平成30年3月31日	3,000
平成29年度助成金額合計			35,000

※平生太郎基金科学研究奨励助成…学園創立者平生鈞三郎のご子息、太郎氏のご令室である故平生愛子様から遺贈を受けた財産で、科学研究(医学を含む)を奨励することを目的とした基金。平成6年度より開始された学園の研究奨励助成制度。

② 平生記念人文・社会科学奨励助成

申請者	研究課題	研究助成期間	助成金額(千円)
富樫 公一 文学部 教授 (人間科学)	トラウマ体験者がトラウ マの不条理さを人生の中 に組織するプロセスに関 する精神分析的考察	平成29年4月1日 ～ 平成30年3月31日	500
平成29年度助成金額合計			500

※平生記念人文・社会科学奨励助成…平生太郎基金の遺贈者の精神に喚起された甲南学園が、学園の資金で人文・社会科学系分野の研究を奨励する助成制度。

③ 伊藤忠兵衛基金出版助成

申請者	著書名	助成金額(千円)
平井 健介 経済学部 准教授 (経済史学)	砂糖の帝国—日本植民地とアジア市場	1,500
島田 茂 法学部 教授 (行政法学)	警察法の理論と法治主義	900

※昭和51年、第3代・第5代理事長伊藤忠兵衛の遺言により遺贈を受けた財産で、学術研究の出版を助成することを目的とした基金。その後、昭和57年にその他の特定基金として統合し、甲南学園教育・研究基金となり、同時に国際交流助成制度を整備した。



④ 国際交流助成

外国人研究者招聘および学生の海外派遣事業に5件、合計650,108円を助成。

⑤ 総合研究所

学術の進歩に寄与することを目的として、昭和59年に設置された総合研究所の下、人文・社会・自然科学の諸分野にわたる総合的な共同研究7件に対し、研究費を助成。

(2) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の展開

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された2件の研究、①「環境応答を司る細胞ネットワークの機能発現の分子細胞メカニズムの解明」(統合ニューロバイオロジー研究所 期間：平成25年度から5年間)、②「核酸の非標準構造を標的とした細胞応答の化学的制御技術の構築と先制核酸工学への展開」(先端生命工学研究所 期間：平成26年度から5年間)を推進。

(3) 私立大学等経常費補助金特別補助(大学間連携等共同研究)による共同研究の実施

理工学部、知能情報学部、フロンティアサイエンス学部が私立大学等経常費補助金特別補助(大学間連携等共同研究)を申請。14件(新規5件、継続9件)の共同研究を推進。

(4) 科学研究費助成の採択、研究支援体制の強化

文部科学省、日本学術振興会による平成29年度科学研究費助成事業の研究課題は108件(新規29件、継続79件、転入者含む)、新規採択率30%。日本学術振興会二国間交流事業や科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業等の公的研究費、公益財団法人ひょうご科学技術協会をはじめとした各種財団の研究助成等にも多くの研究課題が採択。

(5) 研究支援の強化、コンプライアンスへの対応

各種競争的研究資金の申請から管理・執行までの一元的な支援体制の強化、産官学連携コーディネーターとの連携等による研究費獲得に向けた積極的な取組みを推進。

大型公的研究資金の獲得を目指した学内研究グループに対する研究費補助と独創的・先進的な研究を促進。全学的に本学研究力の向上およびブランディングを推進。

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に対応した体制の整備、コンプライアンス教育、研究倫理教育を推進。

研究力の可視化と広報によるブランディングを実施。

(6) 知的財産の活用促進、管理体制の構築

本学教員の研究シーズ情報の積極的な発信と東京地区での展開、産官学連携に有益な各種展示会、新技術説明会等への参画出展。休眠特許を作らない仕組みの策定。

3 学生支援活動

(1) 学生生活の支援

学生マナーアップを推進、学生の健康保持・増進、学生生活の改善・充実、学生を取り巻くトラブル予防の推進および課外活動の活性化に向けた支援を実施。

1・2年生を対象とした学生生活アンケート実施、学生の生活実態を把握、改善に着手。

I 事業の概要

●「父母の会・学生GP」採択一覧

代表者学部	テーマ	取組金額
文学部	甲南大学日本語教室「あおぞら」	120,000円
文学部	甲南大学×神戸スイーツ巡り	305,000円
経済学部	甲南スポーツ応援ツアー	500,000円
法学部	放送部門における放送業界への進出	500,000円
経営学部	経営学部合同ゼミ合宿	352,400円
経営学部	地域の子どもたち・若者との交流イベント	370,980円
経営学部	インクルーシブ柔道の可能性を探る	440,000円

※教育・研究・課外活動等において、学生の自主性を高め、成長を促す取組みについて、甲南大学父母の会が支援する制度。

(2) 障がい学生の支援

障がい学生支援体制の整備、Youステーションを設置、修学支援コーディネーターの配置、学生ボランティア養成講座の実施、障がいに対する理解・啓発活動など障がい学生対応および支援を充実。

(3) キャリア形成・就職支援

キャリアセンターをiCommonsへ移転。学生により近い距離で個々の状況に応じたサポートと質の高い進路支援を実施。多様化する就職試験への対策を強化。

(4) 奨学金制度の充実

新設の給付制奨学金制度（旧制甲南高等学校奨学金、立野純三奨学金）の運用開始。甲南スカラシップ倶楽部を拡充。

(5) 保護者との関係強化

「教育懇談会」において大学概要説明、キャリアセンター講演会、各学部・学科紹介、教員との懇談および個別相談等を実施。（岡本キャンパス、岡山市、東京都各1回、参加者合計1,063名）

4 社会連携・貢献活動

(1) 地域連携（自治体・企業等）の推進

「甲南新世紀ビジョン」に基づき、兵庫県・和歌山市等と連携協定を締結し、すでに協定を結んでいる各自治体も含め連携活動を充実・強化。中四国地域等の自治体に連携先を拡大すべく岡山県と就職支援協定を締結。神戸新聞社と連携した姫路市での地域貢献はか近隣諸団体との連携活動を強化。



締結式での井戸敏三兵庫県知事（右）と吉沢英成理事長

(2) 大学間連携の強化

「大学コンソーシアムひょうご神戸」の主要メンバーとして、私立大学等改革総合支援事業（タイプ5）の採択に向け、ひょうご産官学連携協議会としての中長期計画の立案に貢献。

(3) 産官学連携の推進

本学の知的資産の有効活用に向けた産業界・官公庁・協定機関との連携を強化。

	件数	金額（千円）
受託研究	21件	69,723
共同研究	34件	25,530
奨学寄附金	33件	32,381

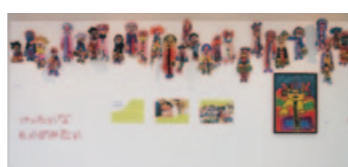
(4) 小学校・中学校・高等学校の児童・生徒等に向けた取組み

独立行政法人日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス」の一環として『ミクロの忍術使い「細胞」の秘密をさぐる』（統合ニューロバイオロジー研究所）や『ようこそナノバイオワールドへ〜同じDNA



ひらめき☆ときめきサイエンス「ようこそナノバイオワールドへ」

から性質の異なるタンパク質を作ろう〜』（先端生命工学研究所）を開催。学内博物館実習施設「ギャラリー・パンセ」公開、高校生を対象に図書館・サイバーライブラリを開放。甲南三法人（甲南女子学園・甲南小学校・甲南学園）の連携による環境教育を実施。



大学企画展「大川誠個展 けったいなものがみたい、永遠に。」（ギャラリー・パンセ）

(5) 教員免許更新制における免許状更新講習の支援

免許状更新講習を実施。教育委員会や現場教員との連携により免許状更新講習を支援。

(6) 生涯学習支援

公開講座、社会人講座、各種シンポジウム、ワークショップ等を積極的に開催。

(7) 「ひょうご博覧会in大阪2017」に出展

兵庫県政150周年イベント「ひょうご博覧会in大阪2017」（11/11～12）に甲南大学ブースを出展。マネジメント創造学部の学生が中心となり、岡本商店街の協力も得て、グッズ販売等による甲南大学のPRを実施。



(8) 「阪神間モダニズム」セミナーを開催

兵庫県政150周年記念の一環として、甲南学園や兵庫県の主催による地域創生セミナー「阪神間モダニズム1900-1940～未来に生かすその精神風土～」を開催。卒業生の山中裕平氏（ヴァイオリニスト）、小原宏貴氏（いけばな小原流五世家元）、荒川裕紀氏（国立明石工業高等専門学校准教授）らが登壇。



5 高大接続・学生募集・入学試験に係る活動

(1) 高大接続活動の強化と整備

国の推進する高大接続一体改革の動向を踏まえ、本学の特色を生かす高大接続の実現や、その体制の確立等を目的とした「高大接続推進タスクフォース」を設置。本学における高大接続活動を「学生募集広報」「コミュニケーション活動」

「教育接続活動」の3つに分類・体系化するとともに、高大接続推進を担う全学的な常設組織「高大接続推進企画運営委員会」の設置を提案。また、高校生と大学生・大学院生が融合して行う文理融合型の研究発表会「リサーチフェスタ」の実施、高大接続推進委員による高校訪問活動の拡充、KONAN INFINITY COMMONS (iCommons) の活用によるオープンキャンパス等各種イベントの魅力化とリピーター対策を実施。

(2) 学生募集広報の強化

本学の特色と魅力および入試等の必要情報を明確かつ機能的に伝えるため、大学案内と受験生向け情報サイト『甲南Ch.』をリニューアル。『KONAN DATA BOOK』『KONAN DIGEST』を発行し、本学の特色や魅力の発信を強化。さらにKONANプレミア・プロジェクトの一環としてSNSを活用、ターゲットにあわせた情報を発信。



(3) 指定校、協定校、系列校との連携強化

協定校・指定校等の重点校との関係強化を図るための説明会や会議を通じたコミュニケーションの充実。甲南高校生および保護者を対象とした「KONAN DAY」の継続実施。

(4) 入試制度の充実と入試制度改革の検討

公募制推薦入試や新たに導入された文系2教科型入試等を充実・安定化。公募制推薦入試において地方試験場（岡山）を新設。また指定校推薦入試試験において、従来はフロンティアサイエンス学部のみで実施していた面接や小論文を導入（法学部を除く）。文部科学省による平成33年度大学入試改革や「高大接続改革実行プラン」を見据えた、本学入試制度改革に向けた検討を開始。

6 環境整備

(1) 教育環境の整備

岡本キャンパス5号館にアクティブ・ラーニング教室を拡充。六甲アイランド総合体育施設へのシャトルバスを増便、可能な限り全員が着席乗車できるよう改善。

(2) KONAN INFINITY COMMONS (iCommons) 竣工に伴う岡本キャンパスの再整備

駐輪場を整備、講堂兼体育館周辺の歩行者動線を改善。教務系各事務室を3号館1階に集約、教務系オフィスとしてワンストップサービスを実現。

(3) 安心安全、省エネ型キャンパスづくりの推進

スペース改修工事に合わせ、照明LED化を継続実施。防犯カメラの増設により、盗難等の発生を抑制。

(4) 情報インフラ整備の推進

スマートフォンの普及に対応する無線LAN環境を整備（第4期）。ネットワーク機器更改による通信セキュリティの強化。

7 課外活動

(1) 各種助成金の支給

スポーツ強化支援「強化指定団体制度」に基づく、強化指定団体（11団体）を対象とした「重点強化助成」の助成額を査定、交付。その他体育会クラブを対象とした「活性化助成」「振興助成」による指導者招聘のための助成金を交付。

(2) 各種イベントの実施

体育会、文化会における各種キャンプの実施支援。指導者・学生を対象としたスポーツ安全講習会の実施。スポーツ応援ツアーの実施。YouTubeでの試合LIVE中継の実施。iCommonsでの文化会の展示・発表会、体育会社行会の実施。

(3) 主な活動成果（金甲賞 受賞クラブ）

※金甲賞は甲南大学父母の会創立40周年を記念し、学生の課外活動を活性化することを目的として平成6年に設けられた表彰制度。

体育会硬式庭球部

・全日本室内学生テニス選手権大会ベスト8（男子ダブルス/女子シングルス）

体育会馬術部

・全日本学生馬術大会（団体） 第4位
 ・全関西学生馬術大会（Lクラス障害飛越A、団体） 準優勝
 ・全関西学生馬術大会（Lクラス障害飛越A、個人） 優勝



馬術部

体育会女子陸上競技部

・第94回関西学生陸上競技対抗選手権大会（4×100mR） 優勝
 ・アジア陸上競技選手権大会（4×100mR） 日本代表1名輩出



女子陸上競技部

体育会ライフル射撃部

・第64回全日本学生スポーツ射撃選手権大会（50mライフル伏射60発競技、個人） 準優勝

体育会陸上競技部

・日本学生陸上個人選手権大会（400m、個人） 第4位
 ・オールスターナイト陸上（秩父宮賜杯第57回実業団・学生対抗陸上競技大会、400m、個人） 優勝

I 事業の概要

高等学校・中学校

1 教育

平生精神をバックボーンとする甲南一貫教育の実現

- ・中2・中3生のフロントランナーコース生を対象とした「サイエンスラボ」「グローバルラボ」を実施。「サイエンスラボ」では「生物統計学」などの実験。「グローバルラボ」では環境、食育、開発教育、国際理解を深める授業を展開。
- ・アルピニストの野口健氏、小林製薬代表取締役副会長の小林豊氏を招いた講演会「ソフィア」による人物教育を実施。
- ・高1アドバンスコース生を対象とする、ビジネスリーダー育成に向けた「キャリアデザイン」を配置し、本学の卒業生が経営するオリバーソース、KITANO CLUB SOLA、神戸酒心館のほか、新阪急ホテル、積水ハウスを訪問。
- ・中3生を対象とする、社会で活躍する卒業生を招聘した「OBワークショップ」を実施。
- ・「理科特別実験」「特色プログラム」「KONAN DAY」等、甲南大学との高大接続を強化。特に平成29年度からは甲南中高大10年一貫教育の確立をめざし、「甲南高等学校-甲南大学引継ぎ式」を実施。
- ・「理科特別実験」での臨海実習を進展させ、神戸大学海事科学部が所有する練習船「深江丸」に乗船し、甲南大学フロンティアサイエンス研究科の大学院生と共に大阪湾での海洋実習を実施。
- ・甲南小学校・甲南女子中高・甲南大学との連携により、今や身近とはいえない泥地や森林での昆虫・植物の生態系に触れる環境学習（田植え、草抜き、稲刈り等）を実施。

2 学習活動・学校生活の支援

学習環境の整備、学力の向上、徳育の強化

- ・集団行動や学校生活等に順応するための中1・高1生へのオリエンテーションを実施。
- ・e-learningによる学習支援システム「レナディ」「まなBOX」に加え、「Classi」を導入。「Classi」では生徒が学習状況を記録できるほか、学習状況について教員からコメントをシステム上で送ることができるなど学習支援環境をより強化。
- ・ネイティブ教員を中心とした「English Day」「English Camp」を実施。
- ・高1フロントランナーコース生および高2文Ⅱ・理数コース生を対象とする「学習合宿」を実施。

3 グローバル・スタディ・プログラムの充実

国際コミュニケーション力の向上

- ・高2生対象「グローバル・スタディ・プログラム」の一環として、国際人育成に向けた海外留学を実施。
- ・国際ビジネスや多民族・異文化を体感するシンガポールスタディツアーを実施。
- ・「グローバル・ファウンデーション」の一環として、中3生希望者によるオーストラリア語学研修を実施。
- ・白川台キャンパスにおいて、中3・高1生が2泊3日で「グローバル・ファウンデーションスプリングセミナー」を実施。

4 生徒募集・入学試験に係る活動

甲南教育の魅力を校外に伝える取組み

- ・教育情報誌等広告媒体の活用、学内と京阪神を中心とした約25か所で計57回の入試説明会を実施。
- ・学校案内冊子の全面リニューアルおよび交通広告による広報を強化。

5 進路状況

それぞれのコースの特性を活かし、生徒一人ひとりの適性や個性に応じた自己の進路を確立。内部推薦で約5割が甲南大学へ進学。他の約5割は国立大学、首都圏・関西等の歯薬系を含めた私立大学に加え、海外の大学にも進学。

6 環境整備

安心・安全な教育環境の整備

- ・中学棟空調設備更新工事を実施。
- ・中長期修繕計画による各所修繕工事を実施。
- ・教室机、イスの老朽化に伴う年次更新を実施。

7 課外活動

クラブ活動の主な活動成果

<高等学校>

アーチェリー部：全国高校総合体育大会 団体準優勝
国民体育大会 少年男子の部 優勝
ゴルフ部：全国高校ゴルフ選手権大会 出場
日本ジュニアゴルフ選手権競技 出場

フェルトシリーズアジア日本大会全国大会 出場
水泳部：近畿高校新人水泳競技大会 100m平泳ぎ 第8位
テニス部：全国選抜高校テニス近畿大会 団体出場
近畿高等学校テニス大会 ダブルス ベスト8
バスケットボール部：兵庫県高校総体 第5位 近畿大会出場
将棋部：全国高校将棋選手権（高校総合文化祭）ベスト16
書道部：弘法大師奉賛高野山競書大会 高野山館長賞
兵庫県総合文化祭書道展 近畿総文推薦賞

ブラスアンサンブル部：
ステラジャム（国際ジャズオーケストラフェスティバル）全国第1位
ジャパンスチューデントジャズフェスティバル 神戸市民文化振興財団賞（全国第4位）

<中学校>

弓道部：近畿中学校弓道大会 男子個人 第2位 団体優勝
ゴルフ部：全国中学校ゴルフ選手権大会 団体第9位 個人出場



アーチェリー部



ブラスアンサンブル部

テニス部：全国中学生テニス選手権大会 団体準優勝 ダブルス 第3位 個人出場 近畿中学校新人テニス大会 第2位
馬術部：全国中学生馬術大会速足部門第2位 駆け足部門2位 ジムカーナ第3位
バスケットボール部：近畿中学校総合体育大会 ベスト8
野球部：U-15 全国KWB野球秋季大会兵庫県代表決定戦 阪神選抜チームに中3生選出 全国大会出場
陸上競技部：ジュニアオリンピック陸上競技大会 走幅跳出場
書道部：弘法大師奉賛高野山競書大会 審査委員長賞 近畿中学生錬成大会 団体優勝
ブラスアンサンブル部：ジャパンスチューデントジャズフェスティバル 日本学校ジャズ教育協会会長賞（全国第3位・学校団体最高位）

クラブ活動以外

- ・文部科学省「放課後子ども教室推進事業」に基づく「あしやキッズスクエア」での小学校の放課後支援ボランティアに1年間で延べ200名以上の生徒が参加。
- ・神戸外国人定住センターでの学習支援ボランティアや芦屋復興住宅の見守り活動、「あしや保健福祉フェア」での発表など。地域支援ボランティアへの参加。

法人

1 管理運営

(1) 学園の資金計画等の策定

学園創立100周年記念事業および学園新世紀を見据えた中長期的な資金計画を策定。学費改定効果（教育面・財務面を合わせて）を点検・評価。

(2) 教育振興のための各種寄付金の受入れ強化

高等学校・中学校保護者および卒業生等を対象とした「教育振興基金」に3,845万円、大学の体育会強化指定クラブを受入対象とした「スポーツ教育力強化支援寄付金」に464万円のご芳志を拝受。

(3) リスク管理、労務・法務管理体制の強化

契約審査、法務相談、学内規程の整備体制を強化。改正個人情報保護法の本格施行に伴う、特定個人情報を含めた個人情報保護体制の全面的見直しを実施。大規模災害時の連絡・安否確認体制の整備に向けた検討を実施。

(4) 安定的な職員組織の構築、適正な人件費配分、快適な労働環境の維持・強化

厳しくなる採用環境に対応すべく採用活動を改善。教育改革を推進するための人材を採用し、適材適所に人員配置。また、育児・介護休業法改正に伴う学内関連規程の改正および同制度の整備、感染症対策を実施。

(5) 学園情報基盤の整備

業務システムを仮想化・クラウド化、KONAN INFINITY COMMONS (iCommons) 建設に伴い基幹ネットワーク構成の変更、教職員証のICカード化により機能を拡大。

2 広報活動・卒業生との連携

(1) スポーツ・芸術活動への協賛

地域貢献や青少年の育成を目的として、兵庫県立芸術文化センター、ヴィッセル神戸、堺ブレイザーズをはじめとする地域性の高い諸団体への支援を継続実施。指揮者 佐渡裕氏が率いる「佐渡裕とスーパーキッズ・オーケストラ」による東日本大震災の復興祈念活動に本学生が参加し、演奏会の実施を援助。

(2) 入学宣誓式に卒業生を招待

学園創立100周年記念事業の一環として、4月1日の甲南大学入学宣誓式に旧制甲南高等学校卒業生と大学1～7期生を招待。93名が参加し、甲南大学67期生となる新入生を祝福。入学宣誓式の後には、甲南大学同窓会主催による昼食会を開催。



(3) 卒業生との連携強化

10月15日に「甲南フェス in iCommons/オール甲南の集い・甲南大学同窓会設立60周年記念祭」を開催。学生の活動成果発表・コンサート・経営者座談会・交流会等の各種イベントを実施、1,000名以上の卒業生が参加。

(4) 平生夙三郎日記の翻刻

学園創立90周年を記念して開始した、創立者平生夙三郎の32年間にわたる日記の翻刻事業を継続。平成29年度は、第15巻と第16巻（昭和9年5月1日～昭和14年9月30日）を刊行。

(5) 学園史資料の活用

旧制甲南高等学校で学んだ音楽家 貴志康一が没後80年を迎え、各地で記念コンサートが開催される中、貴志康一記念室が「ヴァイオリン・ソナタ」の演奏用楽譜を出版し、学内外への広報活動を実施。また、「歌曲」の出版に向けた取組みを継続。

(6) 岡本キャンパスに旧制甲南高等学校生銅像を設置

大正12（1923）年から昭和25（1950）年まで存在した旧制甲南高等学校を記念し、旧制甲南会より寄贈された旧制甲南高等学校生銅像を、岡本キャンパス憩いの広場北側に設置。1月22日に除幕式を開催。



(7) 「甲南×岡本 梅と文化の花結日」開催

地域や卒業生へ向けた文化イベントとして3月3日に開催。卒業生のたなかりか氏（ジャズボーカリスト）らによるJAZZコンサートのほか、岡本梅林公園ツアー、和太鼓チーム「悠」パフォーマンス等を実施。学園創立100周年へ向けた機運の醸成に貢献。



II 財務の概要

I 平成29年度決算の概要

「事業の概要」で記載のとおり、本学は学長・校長のリーダーシップの元で絶え間ない教育改革を進めており、大学ではミディアムサイズの総合大学としての特色を掲げ、諸施策を展開しています。具体的にはキャリア創生科目に代表される学部横断型の共通教育の整備、さらなる高大接続の強化を目指した制度の構築、そして3期目に入り、力強い実施・展開を見せる甲南プレミアムプロジェクトに投資(予算編成方針にて2億円を目途に推進)しました。高等学校・中学校では、グローバル教育の実施、著名人の生き方・考え方に触れる機会(ソフィア講演会)を継続・押し進めました。

また施設面では、大学にて募金事業の目玉であるiCommonsが竣工。周辺の駐輪場に加え、道路を挟んで仲間と語らえるステージを設けました。また当初の想定を大きく越えて利用されている白川台キャンパスも継続的に整備し、西宮・ポートアイランドの両キャンパスも投影設備・安全面向上の整備に投資しました。また高等学校・中学校では西館を整備しました。

収入面では遺贈寄付の受入れがあり、大きな増収となりました。この寄付を基金として給付制奨学金の充実をはかり、より良い就学環境づくりに役立てました。決算上では第3号基本金の組入額に反映されています。

ストック面の具体的な数字はP.18の貸借対照表のとおりですが、建設仮勘定、第2号基本金及び償却引当特定資産を主な財源として、iCommonsをはじめ学園創立100周年記念事業で計画している諸施設に投資しました。100周年記念事業としての大型整備への投資もおおよそ完了し、これらの施設設備を大いに活用し、これまで取り組んできた教育改革・少人数教育の展開をさらに推し進め、甲南新世紀への歩みを力強く進めていく段階となっています。

以下、各決算数字をご説明します。

★学校法人会計基準の一部改正

平成27会計年度より、学校法人会計基準が一部改正されました。社会・経済状況の大きな変化、会計のグローバル化等を踏まえた様々な会計基準の改正を受け、学校法人の経営状態を社会に分かりやすく説明する仕組みが求められていることが背景にあります。

I 資金収支計算書(学園総括) 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	10,937,045	10,959,753	△ 22,708	人件費支出	7,761,725	7,762,598	△ 873
手数料収入	600,071	605,412	△ 5,341	教育研究経費支出	3,242,189	3,237,873	4,316
寄付金収入	873,913	919,242	△ 45,329	管理経費支出	667,379	645,708	21,671
補助金収入	1,204,145	1,238,317	△ 34,172	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	0	0	0	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	124,070	121,211	2,859	施設関係支出	4,069,264	3,877,765	191,499
受取利息・配当金収入	255,786	262,386	△ 6,600	設備関係支出	263,621	281,952	△ 18,331
雑収入	374,810	370,825	3,985	資産運用支出	5,150,522	5,413,908	△ 263,386
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	650,785	654,096	△ 3,311
前受金収入	1,950,899	2,024,984	△ 74,085	予備費	(218,520)		
その他の収入	8,390,018	7,657,832	732,186		96,480		96,480
資金収入調整勘定	△ 2,231,014	△ 2,268,966	37,952	資金支出調整勘定	△ 521,724	△ 731,630	209,906
前年度繰越支払資金	8,928,686	8,928,686	0	翌年度繰越支払資金	10,028,188	9,677,412	350,776
収入の部合計	31,408,429	30,819,682	588,747	支出の部合計	31,408,429	30,819,682	588,747

(注記) 予備費からの振替

計：218,520 (教育研究経費支出：114,686、管理経費支出：44,762、施設関係支出：59,072)

I 資金収支決算の概要

予算対比では、寄付金収入が大きく伸びました。これは年度末に、追加的に遺贈寄付を受け入れたこと、また教育振興への寄付が伸びたことに拠ります。また補助金収入は、本学が大学改革総合支援経費補助金の全5タイプのうち3タイプに選定され、うち1タイプは予算を未計上であったことから増額となりました。さらに学生生徒等納付金収入は春に実施したエリアスタディーズ実習費を計上したこと等により増額となりました。なお入学検定料を含む手数料収入は前年度に続いて増額となり、人物重視の少人数教育の展開が浸透しつつある結果として受け止めています。

他方、執行時段階での内容精査と相見積りでの取得を引き続き進めたことで、質を落とさずに支出を抑制することができました。なお教育研究経費支出と設備関係支出は、予算では施設関係支出で計上したiCommonsの支出のうち、一部をアクティブラーニングを展開しうる移動式机・椅子、器具で執行(科目振替)したことにより、支出額が増えました(施設関係支出は予算を下回る執行となりました)。

ところで学園は各性質に応じた引当特定資産を有しており、その特定資産への積増し、取崩しが「資産運用支出」、「その他の収入」です。iCommons等の投資のため、取崩額(「その他の収入」)が大きかったものの、遺贈により第3号基本金特定資産を積増せました。なお収支改善による資金は、特定資産に追加的に積増したため、「資産運用支出」は予算を上回りました。

なお「活動区分」の観点では、iCommons等の施設面の投資により、前年度に引き続き「施設整備等活動」の支出が増えています。「その他の活動」である受取利息・配当金収入は、例年どおり理事長・学長・校長から提案された「優秀な学生への支援」、「学園の戦略広報」、「スポーツ強化支援」及び「国際的に卓越した研究推進」等への財源として、「教育」や「施設整備等」の活動に使用しています。(活動区分資金収支計算書は次ページに掲載しています。)

I 活動区分資金収支計算書(学園総括) 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位:千円)

(注記) 調整勘定の計算 (単位:千円)

科目	金額
学生生徒等納付金収入	10,959,753
手数料収入	605,412
特別寄付金収入	759,179
経常費等補助金収入	1,238,317
付随事業収入	120,910
雑収入	370,825
教育活動資金収入計	14,054,396
人件費支出	7,762,598
教育研究経費支出	3,237,873
管理経費支出	645,708
教育活動資金支出計	11,646,179
差引	2,408,217
調整勘定等	△ 19,800
教育活動資金収支差額	2,388,417

科目	金額
施設設備寄付金収入	160,063
施設設備補助金収入	0
施設設備売却収入	0
第2号基本金引当特定資産取崩収入	1,385,200
償却引当特定資産取崩収入	3,843,453
理系学部設備充実費引当特定資産取崩収入	32,472
施設整備等活動資金収入計	5,421,188
施設関係支出	3,877,765
設備関係支出	281,952
第2号基本金引当特定資産繰入支出	1,058,262
償却引当特定資産繰入支出	2,098,624
理系学部設備充実費引当特定資産繰入支出	43,159
施設整備等活動資金支出計	7,359,762
差引	△ 1,938,574
調整勘定等	418,384
施設整備等活動資金収支差額	△ 1,520,190
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	868,227

科目	金額
借入金等収入	0
第3号基本金引当特定資産取崩収入	0
退職給与引当特定資産取崩収入	704,246
大学教育・研究環境整備充実引当特定資産取崩収入	388,677
大学将来計画引当特定資産取崩収入	418,029
平生太郎基金引当特定資産取崩収入	34,055
岡崎一雄基金引当特定資産取崩収入	4,906
中高教育充実引当特定資産取崩収入	0
貸付金回収収入	57,199
預り金受入収入	182,613
仮払金受入収入	46
立替金受入収入	4,029
敷金・保証金回収収入	0
小計	1,793,800
受取利息・配当金収入	262,386
収益事業収入	301
その他の活動資金収入計	2,056,487
借入金等利息支出	0
借入金等返済支出	0
第3号基本金引当特定資産繰入支出	496,249
退職給与引当特定資産繰入支出	693,314
大学教育・研究環境整備充実引当特定資産繰入支出	300,000
大学将来計画引当特定資産繰入支出	396,166
平生太郎基金引当特定資産繰入支出	104,578
岡崎一雄基金引当特定資産繰入支出	0
八木慎二基金引当特定資産繰入支出	186,093
中高教育充実引当特定資産繰入支出	37,354
出資金支出	109
貸付金支払支出	1,680
預り金支払支出	157,549
仮払金支払支出	53
立替金支払支出	2,843
敷金・保証金支払支出	0
その他の活動資金支出計	2,375,988
差引	△ 319,501
調整勘定等	200,000
その他の活動資金収支差額	△ 119,501
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	748,726
前年度繰越支払資金	8,928,686
翌年度繰越支払資金	9,677,412

※企業会計と学校法人会計の相違につきましては、本学ホームページに記載しています。

科目	金額
前受金収入	2,024,984
前期末前受金*	△ 2,020,821
前期末未収入金収入	181,698
前期末未収入金*	△ 248,145
収入計	△ 62,284
前払金支払支出	135,016
前期末前払金*	△ 113,864
前期末未払金支払支出	354,130
前期末未払金*	△ 417,766
支出計	△ 42,484
調整勘定計	△ 19,800

科目	金額
前受金収入	0
前期末前受金*	0
前期末未収入金収入	421,209
前期末未収入金*	0
収入計	421,209
前払金支払支出	0
前期末前払金*	0
前期末未払金支払支出	2,825
前期末未払金*	0
支出計	2,825
調整勘定計	418,384

科目	金額
前受金収入	0
前期末前受金*	0
前期末未収入金収入	0
前期末未収入金*	0
収入計	0
前払金支払支出	0
前期末前払金*	0
前期末未払金支払支出	0
前期末未払金*	△ 200,000
支出計	△ 200,000
調整勘定計	200,000

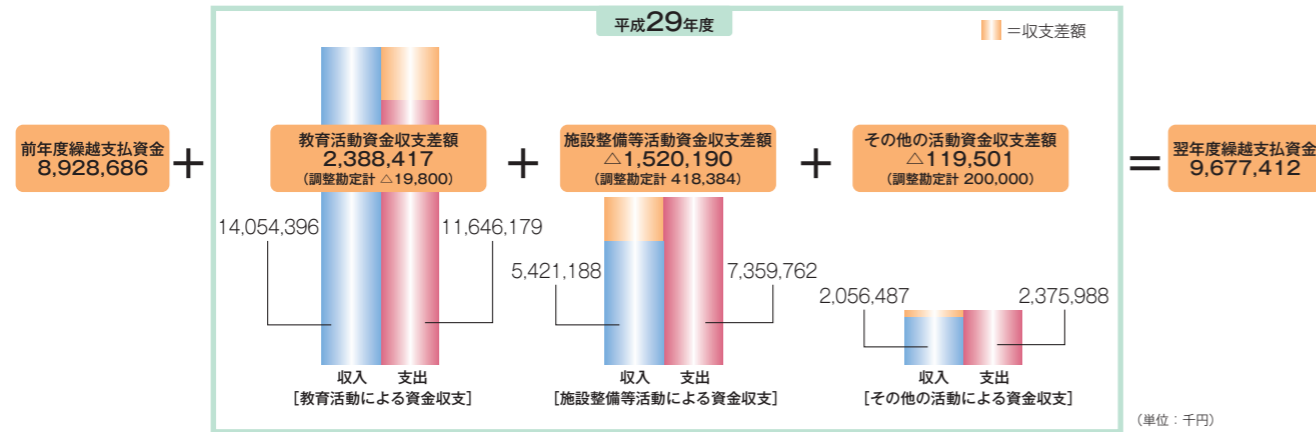
「資金収支計算書」の様式に加え、決算時に活動区分(「教育」「施設整備等」「その他」)に分けた「活動区分資金収支計算書」を作成することになりました。
 ・「教育活動」：キャッシュベースで本業の教育活動の収支状況を把握できます。通常は「+」となります。
 ・「施設整備等活動」：当年度に施設設備の購入または売却その他これらに類する活動があったか、財源は何かを把握できます。教育活動のプラス分を施設整備にまわすため、通常は「-」となります。
 ・「その他の活動」：借入金等の収支、資産運用の状況、収益事業にかかる活動等、主に財務活動を把握できます。教育や施設の資金を特定資産や借入金で調達していれば「+」、逆の場合や特定資産への繰入れが多ければ「-」となります。上表の「*」の科目、引当特定資産の取崩・繰入等がP.13の資金収支計算書(学園総括)の「資金収入(支出)調整勘定」となります。

《用語の説明》

資金収支	1年間の教育研究活動に伴う資金の収入と資金の支出を明らかにし、支払資金の順末を表わすものです。
活動区分資金収支	資金収支のうち、施設設備の取替更新やさらなる取得を「施設整備等活動」として取り出し、また財務活動や収益事業さらには預り金の受払い等の経過的な活動を「その他の活動」として取り出し、それ以外のものを「教育活動」として、3つの活動に分けて表わすものです。
事業活動収支	企業会計の損益計算の仕組みを引用し、負債にならない収入(事業収入)と費用(事業支出)の内容と均衡の状態を明らかにしようとするものです。この収支は、経常的な収支のうち、財務活動(資金調達・運用)及び収益事業に係る活動による「教育活動外収支」、また特殊要因によって一時的に発生した臨時的な活動(例:過年度修正額、資産売却差額、資産処分差額、災害損失、さらには施設設備にかかる寄付金・補助金・現物寄付)による「特別収支」。そしてそれ以外の「教育活動収支」に分けて、収支の均衡を表示します。
事業活動収入	資金収支計算書の収入の部(学生生徒等納付金収入)、「手数料収入」、「寄付金収入」、「補助金収入」、「付随事業収入」、「受取利息・配当金収入」、「雑収入」、「その他の特別収入(施設設備にかかる寄付金・補助金)」に現物寄付、等を加えたもので、負債とならない正味の収入をいいます(外部からの借入金のように学校法人の負債となる収入は含みません)。
事業活動支出	資金収支計算書の支出の部の「人件費支出(退職金支出を除き、事業活動支出科目の退職給与引当金繰入額・退職金を加える)」、「教育研究経費支出・管理経費支出(減価償却額を加える)」、「借入金等利息支出」に事業活動支出のみの項目である「資産処分差額」、「徴収不能額等」を加えたものです。
基本金組入前当年度収支差額	事業活動収入と事業活動支出との差です。毎期の収支バランスを見るとともに、基本金組入れ余力を表示します。

II 財務の概要

I 繰越支払資金の流れ



II 事業活動収支決算の概要

学園全体の事業活動収入は147億60百万円、事業活動支出は137億18百万円となり、差額である基本金組入前当年度収支差額は10億42百万円の収入超過となりました。また基本金組入額(下段《科目の説明》ご参照)は、iCommons建設・白川台キャンパスの整備等に加え、遺贈寄付のうち6億50百万円を奨学金基金に組入れたため、例年の組入額を大きく上回る42億27百万円となり、これを算入した当年度収支差額は△31億85百万円となりました。

予算対比で見ますと、事業活動収入(予算は146億06百万円)はすべての科目で上回りました。資金収支の箇所でも説明した事項に加え、大学で科学研究費補助金で購入された機器を現物寄付として受け入れたことによる寄付金の増加がありました。他方、事業活動支出(予算は139億04百万円)は、予備費で156百万円残額が発生したこと。さらに教育研究経費・管理経費の執行残に加え、建物の除却により減価償却額ではなく資産処分差額で処理したこと、特に教育研究経費の予算残が発生し、支出額が抑制されました。これらを踏まえ、事業活動支出137億18百万円となり、予算対比で、1億86百万円の減額となりました。

以上、収入は増額、支出は減額となり、予算では7億02百万円であった基本金組入前当年度収支差額は、10億42百万円と大きく改善されました。

次に、前年度決算と比較しますと、収入では4億49百万円、支出では96百万円の増額となりました。収入面は学費改定2日目となり学生

生徒等納付金が増額しました。また先述の遺贈募金が大きく寄与したため寄付金も増額。2年度にわたって交付された耐震改築補助金が終了したため、補助金は減額しましたが、全体では増収となっています。なお受験者数も引き続き増えたため、手数料は24百万円増額しました。

他方、事業活動支出では、前年度に減額となった職員人件費や退職給与引当金繰入額等が増額となりました。特に前者は学長・校長が掲げる教育改革を支える人員体制を整備することによる積極的な投資の意味も含まれています。なお教育研究経費は171百万円増額となりましたが、これは先述のとおり、iCommons建設費を、消耗品・用品費に振り替えたことが大きく影響しています。他方で前年度はiCommons建設等に伴う建物の処分差額を多額計上しましたが、本年度は少額計上に留まり、支出全体では96百万円の増加に留まりました。

基本金組入額は、iCommons建設の最終年度となり、第2号基本金積立てに拠らない建物・構築物の支出が大きかったこと。また例年よりも除却した機器・図書が少なく、組入額の減額が少額であったこと。奨学金等の基金である第3号基本金は、今年度も遺贈寄付を計上できたことで組入額が増えたこと。これらのことから基本金組入額は前年度を大きく上回る42億27百万円となりました。

《科目の説明》

1. 学生生徒等納付金

授業料、入学金、施設設備資金、施設維持費、教育充実費、実験実習費等

2. 手数料

入学検定料、証明書手数料等

3. 寄付金

教育振興募金、100周年記念事業募金、遺贈募金、企業様からの研究助成等

4. 補助金

経常費補助金(戦略的研究基盤形成支援事業を含む)、研究装置、設備、施設整備費等補助金等

* 研究設備や装置等の設備及び施設に対する寄付金や補助金は、特別収支の「その他の特別収入」に計上されます。

5. 受取利息・配当金

特定資産を含む金銭面の資産運用による収入(施設設備の貸出しによる「施設設備利用料収入」は含みません)

6. 付随事業・収益事業収入

補助活動や受託事業、収益事業にかかる収入等

7. 雑収入

退職金財団からの交付金収入、研究費の間接経費分の収入、施設設備の貸出しによる収入等

8. 人件費

教員・職員に支給する本俸・期末手当・その他の手当及び所定福利費、役員報酬、退職給与引当金繰入額、退職金

9. 教育研究経費

教育研究のために要する経費及び教育研究用減価償却資産の減価償却額

10. 管理経費

教育研究経費以外の経費及び教育研究用以外の減価償却資産の減価償却額

11. 資産処分差額

固定資産(建物・構築物・備品・図書等)の除却・売却差額、有価証券処分差額

12. 徴収不能額等

奨学金回収不能額を見積る引当金計上額、徴収が不能または徴収を免除した徴収不能額

13. 基本金組入額

校地・校舎・機器備品・図書等教育研究の充実・拡充のために取得した固定資産の充実に要した額及び教育研究基金等への組入額

(基本金は学校法人が教育・研究を継続的に維持向上させていくために必要な校地・校舎、機械器具、図書等取得した金額(第1号基本金)、校地・校舎等取得するために年次的・段階的に積み立てる資金(第2号基本金)、教育・研究を維持充実するための積立(第3号基本金)及び恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣の定める額(第4号基本金)の確保のために、充てられる金額です。)

III 事業活動収支決算書・構成比率(学園総括)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異	比率
事業活動収入	14,606,207	14,759,591	△ 153,384	100.0%
学生生徒等納付金	10,937,045	10,959,753	△ 22,708	74.3%
手数料	600,071	605,412	△ 5,341	4.1%
寄付金	736,185	759,179	△ 22,994	5.1%
経常費等補助金	1,204,145	1,238,317	△ 34,172	8.4%
付随事業収入	123,690	120,910	2,780	0.8%
雑収入	374,810	374,363	447	2.5%
教育活動収入計	13,975,946	14,057,934	△ 81,988	95.2%
事業活動支出	13,903,834	13,718,286	185,548	92.9%
人件費	7,740,460	7,740,869	△ 409	52.4%
教育研究経費	5,181,113	5,113,282	67,831	34.6%
管理経費	683,089	656,338	26,751	4.5%
徴収不能額等	0	268	△ 268	0.0%
教育活動支出計	13,604,662	13,510,757	93,905	91.5%
教育活動収支差額	371,284	547,177	△ 175,893	

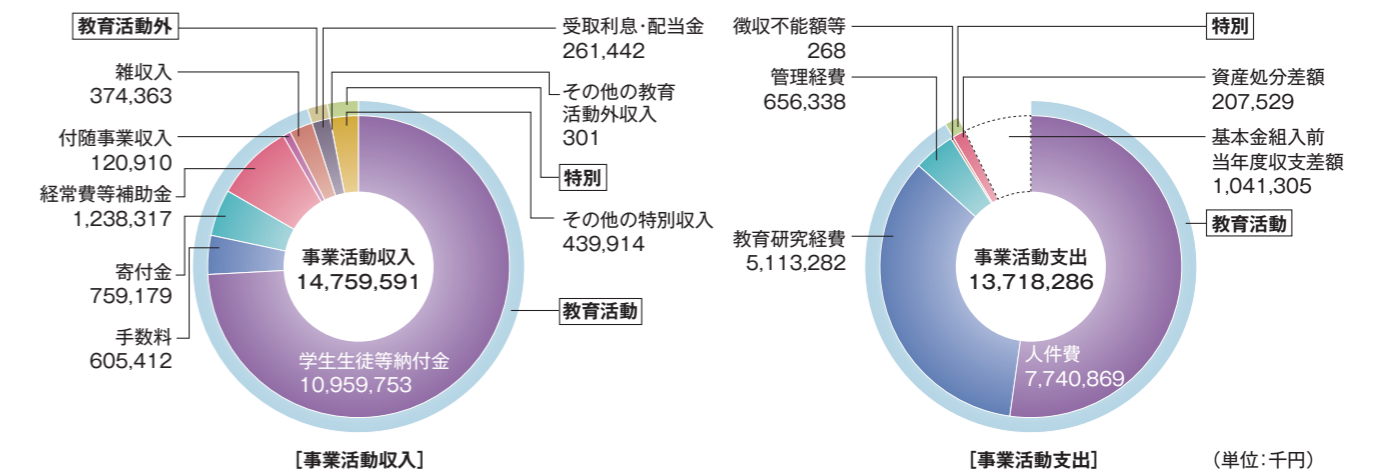
科目	予算	決算	差異	比率
事業活動外収入	256,166	261,743	△ 5,577	1.8%
受取利息・配当金	255,786	261,442	△ 5,656	1.8%
その他の教育活動外収入	380	301	79	0.0%
教育活動外収入計	256,166	261,743	△ 5,577	1.8%
事業活動外支出	0	0	0	0.0%
借入金等利息	0	0	0	0.0%
その他の教育活動外支出	0	0	0	0.0%
教育活動外支出計	0	0	0	0.0%
教育活動外収支差額	256,166	261,743	△ 5,577	
経常収支差額	627,450	808,920	△ 181,470	

科目	予算	決算	差異	比率
特別収入	374,095	439,914	△ 65,819	3.0%
資産売却差額	0	0	0	0.0%
その他の特別収入	374,095	439,914	△ 65,819	3.0%
特別収入計	374,095	439,914	△ 65,819	3.0%
事業活動支出	230,475	232,385	△ 1,910	1.4%
資産処分差額	143,620	207,529	△ 63,909	1.4%
その他の特別支出	0	0	0	0.0%
特別支出計	143,620	207,529	△ 63,909	1.4%
特別収支差額	230,475	232,385	△ 1,910	

科目	予算	決算	差異	比率
予備費	155,552	155,552	0	1.1%
基本金組入前当年度収支差額	702,373	1,041,305	△ 338,932	28.6%
基本金組入額合計	△ 4,306,575	△ 4,226,794	△ 79,781	
当年度収支差額	△ 3,604,202	△ 3,185,489	△ 418,713	
前年度繰越収支差額	△ 13,880,730	△ 13,880,730	0	
基本金取崩額	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△ 17,484,932	△ 17,066,219	△ 418,713	

(参考)

科目	予算	決算	差異	比率
事業活動収入計	14,606,207	14,759,591	△ 153,384	100.0%
事業活動支出計	13,903,834	13,718,286	185,548	92.9%



※表の構成比率及び円グラフは、事業活動収入計「決算」を100とした場合の当該科目の比率及び円グラフとなっています。
 ・「その他の教育活動外収入」には、収益事業収入が計上されています。
 ・「その他の特別収入」には、施設設備の寄付金と現物寄付が計上されています(当年度は施設設備の補助金はありませんでした)。

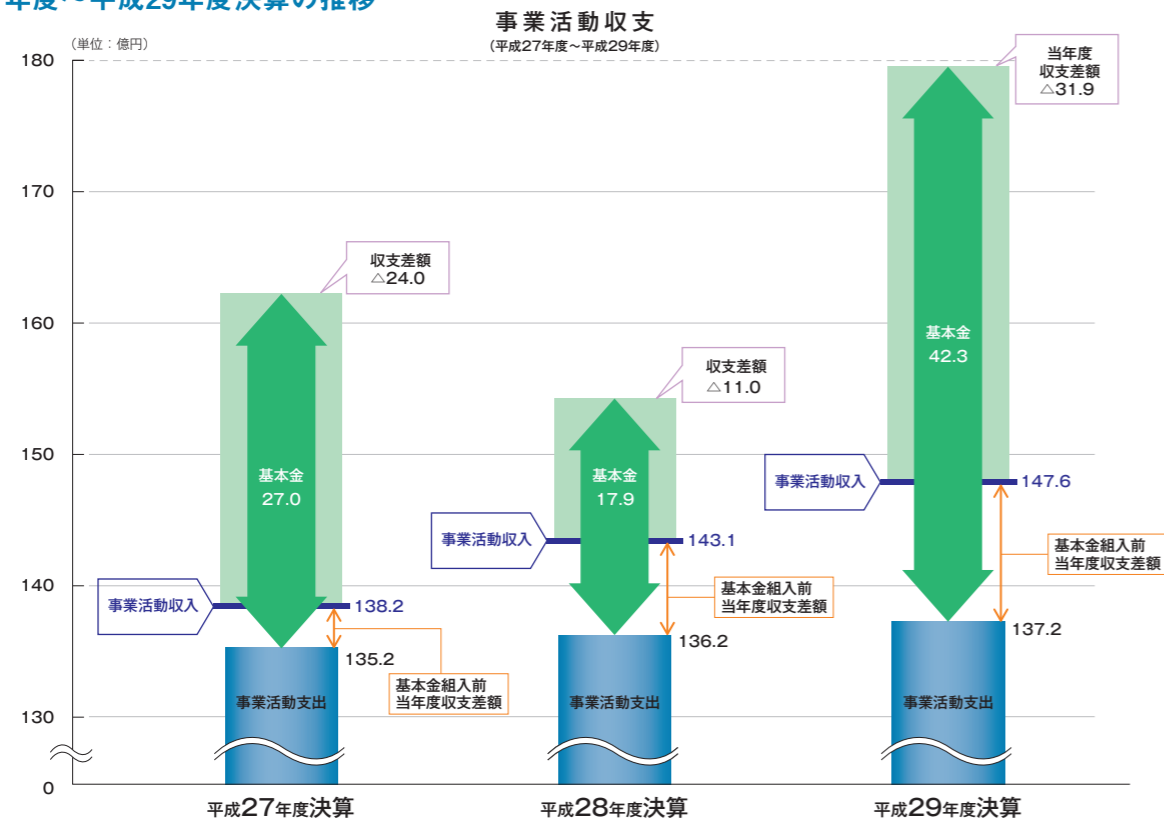
II 財務の概要

I 事業活動収支(旧:消費収支)決算の推移(学園総括) 平成24年度から平成29年度まで (単位:千円)

科目	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業活動収入 (旧:帰属収入)		14,090,703	14,174,509	13,635,490	13,822,799	14,311,092	14,759,591
基本金組入額		△ 310,128	△ 1,352,153	△ 1,299,164	△ 2,703,176	△ 1,791,097	△ 4,226,794
旧:消費収入		13,780,575	12,822,356	12,336,326	11,119,623	12,519,995	10,532,797
事業活動支出 (旧:消費支出)		14,197,757	13,604,529	13,483,757	13,523,535	13,622,500	13,718,286
基本金組入前当年度収支差額 (旧:帰属収支差額)		△ 107,054	569,980	151,733	299,264	688,592	1,041,305
当年度収支差額 (旧:消費収入超過額)		△ 417,182	△ 782,173	△ 1,147,431	△ 2,403,912	△ 1,102,505	△ 3,185,489
繰越収支差額(累計)		△ 8,444,709	△ 9,226,882	△ 10,374,313	△ 12,778,225	△ 13,880,730	△ 17,066,219

(注)「事業活動収入」の「(旧:帰属収入)」は、平成26年度までの旧基準では「帰属収入」であったことを表します(以下の表も同様です)。

I 平成27年度～平成29年度決算の推移



主な施設・設備の整備状況(学園全体)

平成29年度に行った主な工事は以下のとおりです。

工事名称	対象施設	概要
KONAN INFINITY COMMONS 新築工事	大学 iCommons・上空通路・まつステージ	甲南新世紀ビジョンを実現するための複合施設を新築。合わせて東西キャンパス間をつなぐ上空通路、西門周辺の環境整備を実施。
白川台キャンパス整備工事(3期)	大学 人工芝グラウンド・バーベキュー場・馬術部厩舎・馬場	白川台キャンパスのグラウンドを人工芝化。またレクリエーション施設としてバーベキュー場を整備。広野施設にあった馬術部関係施設の新築移転を実施。
フロンティア研究推進機構事務室移転工事	大学 岡本キャンパス2号館	フロンティア研究推進機構事務室を甲友会館から2号館に移転させ、産学連携等の状況を可視化。
教務系オフィス整備工事	大学 岡本キャンパス3号館	学生部iCommons移転の跡地に国際言語文化センター事務室等の教務系事務室を集約。教務部との連携を図り、学生への教務系ワンストップサービスを提供。
西館空調更新工事	中高 中高校舎西館	老朽化した空調設備を更新。省エネ化を図るとともに快適な教室環境を提供。

I 貸借対照表(平成30年3月31日) (単位:千円)

資産の部			負債の部				
科目	平成29年度末	平成28年度末	増減	科目	平成29年度末	平成28年度末	増減
固定資産	79,898,895	79,003,218	895,677	固定負債	4,527,761	4,549,490	△ 21,729
有形固定資産	60,994,744	58,810,260	2,184,484	長期借入金	0	0	0
土地	22,489,434	22,489,434	0	退職給与引当金	4,527,761	4,549,490	△ 21,729
建物	29,932,718	26,144,621	3,788,097	流動負債	2,836,742	2,546,704	290,038
構築物	1,547,894	1,267,448	280,446	短期借入金	0	0	0
教育研究用機器備品	1,603,731	1,684,845	△ 81,114	未払金	626,963	366,152	260,811
管理用機器備品	24,390	26,585	△ 2,195	前受金	2,027,166	2,023,003	4,163
図書	5,383,107	5,343,162	39,945	預り金	182,613	157,549	25,064
車輜	5,964	7,641	△ 1,677	負債の部合計	7,364,503	7,096,194	268,309
建設仮勘定	7,506	1,846,524	△ 1,839,018				
特定資産	18,487,470	19,719,139	△ 1,231,669	大学施設設備充実資金	115,457	(平成29年度末)	
第2号基本金引当特定資産	115,457	442,395	△ 326,938	奨学助成基金	1,720,609		
第3号基本金引当特定資産	5,056,725	4,354,876	701,849	国際教育研究交流基金	1,386,608		
退職給与引当特定資産	2,263,880	2,274,745	△ 10,865	八木慎二「わがみちをすすめ」奨学基金	651,177		
償却引当特定資産	5,343,080	7,128,041	△ 1,784,961	教育・研究助成(中高)基金	488,802		
理系学部設備充実費引当特定資産	152,143	141,456	10,687	他	(平成29年度末)		
大学教育・研究環境整備充実費引当特定資産	2,304,563	2,393,240	△ 88,677				
大学将来計画準備引当特定資産	974,734	996,597	△ 21,863				
平生太郎基金引当特定資産	2,008,021	1,937,463	70,558				
岡崎一雄基金引当特定資産	9,340	14,246	△ 4,906				
八木慎二基金引当特定資産	186,093	-	186,093				
中高教育充実引当特定資産	73,434	36,080	37,354				
その他の固定資産	416,681	473,819	△ 57,138				
ソフトウェア	10,024	13,852	△ 3,828				
電話加入権	4,609	4,609	0				
施設利用権	6,972	8,145	△ 1,173				
長期貸付金	243,062	295,309	△ 52,247				
出資金	25,138	25,028	110				
敷金・保証金	126,876	126,876	0				
流動資産	10,522,109	10,108,172	413,937				
現金預金	9,677,412	8,928,686	748,726				
未収入金	688,374	1,043,135	△ 354,761				
前払金	153,112	131,961	21,151				
仮払金	126	120	6				
立替金	3,085	4,270	△ 1,185				
資産の部合計	90,421,004	89,111,390	1,309,614				
				純資産の部			
				科目	平成29年度末	平成28年度末	増減
				基本金	100,122,720	95,895,926	4,226,794
				第1号基本金	94,126,538	90,274,655	3,851,883
				第2号基本金	115,457	442,395	△ 326,938
				第3号基本金	5,056,725	4,354,876	701,849
				第4号基本金	824,000	824,000	0
				繰越収支差額	△ 17,066,219	△ 13,880,730	△ 3,185,489
				翌年度繰越収支差額	△ 17,066,219	△ 13,880,730	△ 3,185,489
				純資産の部合計	83,056,501	82,015,196	1,041,305
				負債及び純資産の部合計	90,421,004	89,111,390	1,309,614

(注記) 貸借対照表の補足説明

その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

○有価証券の時価情報(総括表)

(単位:千円)

種類	平成29年度(平成30年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの(うち満期保有目的の債券)	5,852,128 (700,000)	8,286,990 (709,915)	2,434,862 (9,915)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの(うち満期保有目的の債券)	3,981,502 (1,500,000)	3,759,197 (1,446,669)	△ 222,305 (△ 53,331)
合計(うち満期保有目的の債券)	9,833,630 (2,200,000)	12,046,187 (2,156,584)	2,212,557 (△ 43,416)
時価のない有価証券	8,000		
有価証券合計	9,841,630		

II 財務の概要

I 財務状況の推移(学園総括) 平成24年度から平成29年度まで

(単位:千円)

科目	年度	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末
総資産		88,029,824	88,419,425	88,639,938	88,767,591	89,111,390	90,421,004
固定資産		78,186,273	78,386,264	78,346,382	78,854,695	79,003,218	79,898,895
有形固定資産		57,752,547	57,611,811	57,515,542	57,907,450	58,810,260	60,994,744
特定資産		19,655,669	20,087,388	20,228,064	20,018,230	19,719,139	18,487,470
その他の固定資産		778,057	687,065	602,776	929,015	473,819	416,681
流動資産		9,843,551	10,033,161	10,293,556	9,912,896	10,108,172	10,522,109
総負債		7,724,197	7,543,818	7,612,598	7,440,987	7,096,194	7,364,503
固定負債		5,008,317	4,787,740	4,678,542	4,584,451	4,549,490	4,527,761
流動負債		2,715,880	2,756,078	2,934,056	2,856,536	2,546,704	2,836,742
(うち、借入金)		0	0	0	0	0	0
基本金		88,750,336	90,102,489	91,401,653	94,104,829	95,895,926	100,122,720
繰越収支差額 (旧:消費収支差額)		△ 8,444,709	△ 9,226,882	△ 10,374,313	△ 12,778,225	△ 13,880,730	△ 17,066,219
純資産 (旧:正味財産)		80,305,627	80,875,607	81,027,340	81,326,604	82,015,196	83,056,501

(注)・平成27年度の学校法人会計基準の改正(新基準)から、「その他の固定資産」のうち、各種引当特定資産を抽出して、中科目「特定資産」が新設されました。
(平成26年度以前も新基準に合わせて分解し、表示しています。)

I 財務比率の推移(学園総括) 平成24年度から平成29年度まで

経年推移・比較が分かるよう、旧基準の数値も掲載しています。

(単位:%)

	比率名	算式(×100)	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
貸借対照表関係	固定資産構成比率	固定資産 総資産	88.8 (87.3)	88.7 (87.4)	88.4 (87.2)	88.8 (87.2)	88.7 (87.3)	88.4
	固定比率	固定資産 *純資産(旧:自己資金)	97.4 (101.3)	96.9 (101.0)	96.7 (100.5)	97.0 (100.3)	96.3 (100.1)	96.2
	固定長期適合率	固定資産 *純資産+固定負債 (純資産は、旧:自己資金)	91.6 (92.7)	91.5 (92.6)	91.4 (92.2)	91.8 (92.2)	91.3 (92.2)	91.2
	流動比率	流動資産 流動負債	362.4 (217.9)	364.0 (223.8)	350.8 (235.3)	347.0 (239.1)	396.9 (237.9)	370.9
	流動負債構成比率	流動負債 総負債+純資産	3.1 (5.8)	3.1 (5.6)	3.3 (5.4)	3.2 (5.3)	2.9 (5.3)	3.1
	総負債比率	総負債 総資産	8.8 (13.8)	8.5 (13.5)	8.6 (13.3)	8.4 (13.0)	8.0 (12.8)	8.1
	退職給与引当預金率	退職給与引当特定預金(資産) 退職給与引当金	50.0 (64.0)	50.0 (65.0)	50.0 (65.5)	50.0 (67.7)	50.0 (68.5)	50.0
	償却引当預金率	償却引当特定預金(資産) 償却引当金	26.1 (19.2)	27.5 (19.1)	29.0 (18.3)	24.3 (17.9)	23.1 (17.4)	16.5

(単位:%)

	比率名	算式(×100)	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業活動収支関係	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 *事業活動収入 (旧:帰属収入) [新]学生生徒等納付金 経常収入	79.4 (74.6)	77.1 (74.8)	77.8 (73.9)	77.0 (73.6)	74.9 (73.2)	74.3
	寄付金比率	寄付金 *事業活動収入 (旧:帰属収入) [新]教育活動収入の寄付金 経常収入	1.0 (2.7)	2.8 (1.6)	1.3 (1.6)	1.9 (1.9)	4.6 (3.9)	8.1
	[新]経常寄付金比率	[新]教育活動収入の寄付金 経常収入	0.7	2.0	0.9	0.8 (1.2)	1.6 (2.7)	5.3
	補助金比率	補助金 *事業活動収入 (旧:帰属収入) [新]教育活動収入の補助金 経常収入	9.0 (11.7)	9.8 (12.1)	10.0 (11.9)	11.6 (11.2)	11.9 (11.0)	8.4
	[新]経常補助金比率	[新]教育活動収入の補助金 経常収入	8.3	9.4	9.6	8.9 (11.5)	9.3 (11.3)	8.6
	人件費比率	人件費 *帰属収入 (新:事業活動収入) [新]人件費 経常収入	57.9 (51.9)	57.6 (52.5)	59.8 (52.3)	56.2 (51.7)	53.2 (51.7)	52.4
	人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	72.9 (69.6)	74.6 (70.2)	76.8 (70.8)	73.1 (70.3)	70.9 (70.5)	70.6
	教育研究経費比率	教育研究経費 *帰属収入 (新:事業活動収入) [新]教育研究経費 経常収入	33.0 (32.9)	32.6 (33.6)	34.5 (33.6)	35.6 (33.4)	34.5 (32.6)	34.6
	管理経費比率	管理経費 *帰属収入 (新:事業活動収入) [新]管理経費 経常収入	6.2 (7.8)	4.7 (7.3)	4.3 (7.5)	4.4 (7.3)	4.5 (7.4)	4.5
	事業活動支出比率	(旧:消費支出) 事業活動支出 事業活動収入 (旧:帰属収入)	100.8 (94.2)	96.0 (95.2)	98.9 (94.9)	97.8 (94.0)	95.2 (93.2)	92.9
基本金組入率	基本金組入額 事業活動収入 (旧:帰属収入)	2.2 (11.3)	9.5 (11.2)	9.5 (10.2)	19.6 (10.9)	12.5 (12.1)	28.6	

(注)・()内は全国理工他複数学部法人平均。
・「新」は平成27年度の学校法人会計基準の一部改正(新基準)を受けたものであることを表します。
・「固定資産」=有形固定資産+特定資産+その他の固定資産。平成27年度からの新基準より、「その他の固定資産」から各種引当特定資産を抽出して「特定資産」が区分されました。
・「純資産」=旧来の「自己資金」。「自己資金」は基本金+消費収支差額であり、新基準では基本金+繰越収支差額となります。
・「経常収入」=教育活動収入+教育活動外収入。

Ⅲ 法人の概要

名称	学校法人甲南学園		
法人設立の年月日	大正7(1918)年12月20日		
設置学校	甲南大学・大学院		
	◎岡本キャンパス	〒658-8501	兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号
	◎西宮キャンパス	〒663-8204	兵庫県西宮市高松町8番33号
	◎ポートアイランドキャンパス	〒650-0047	兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目1番20

	甲南高等学校・中学校	〒659-0096	兵庫県芦屋市山手町31番3号

Ⅰ役員(平成30年3月31日現在)

理事※1 定数19～29名以内
現員28名

吉沢英成 (理事長)
片山勉 (副理事長)
長坂悦敬 (学長)
山内守明 (校長)
稲田義久 (副学長)
中井伊都子 (副学長)
野澤太郎 (常任)
村津敬介 (常任)
稲垣嗣夫 (常任)
佐藤治正 (常任)(マネジメント創造学部教授)
渡辺顕修 (常任)(法学研究科長)
平野欽一郎 (常務)
葉袋真人 (常勤)
出口晶子 (文学部長)
渡邊順司 (理工学部長)
上島康弘 (経済学部長)
島田茂 (法学部長)
杉山善浩 (経営学部長)
市川典男
山田純嗣
伊藤勲
岡橋輝和
小林豊
杉本直己
角和夫

中内仁
平生誠三
水越浩士

監事※2 定数2～3名以内
現員2名

植村武雄 (非常勤)
牧美喜男 (常勤)

評議員※3 定数41～60名以内
現員58名

石井昇 (学内)
石野牧生 (学内)
位原美智子 (学内)
河口浩 (学内)
佐藤治正 (学内)
谷向豊 (学内)
寺尾建 (学内)
濱谷和生 (学内)
林正樹 (学内)
村嶋貴之 (学内)
足立恵英 (学内)
半田岳英 (学内)

赤田真朗
伊豫田隆俊 (学内)
衣斐茂樹
奥田兼三
小倉宏之
片山勉 (学内)
佐藤茂
白石朋康
杉山洋一
立野純三
道満善弘
松井佐一郎
丸谷昭博
葉袋真人 (学内)
和田直哉
稲垣嗣夫
平生誠三
平野欽一郎 (学内)
吉沢英成 (学内)
長坂悦敬 (学内)
山内守明 (学内)
出口晶子 (学内)
渡邊順司 (学内)
上島康弘 (学内)
島田茂 (学内)

杉山善浩 (学内)
渡辺顕修 (学内)
宇津原彰一
金岡信康
上林宏充
熊田昭夫
嶋進
村上和隆
八塚香保里
市川典男
稲田義久 (学内)
岩崎邦彦
岩田憲明
上島一泰
加藤隆久
佐々木良太郎
中井伊都子 (学内)
細谷俊雄
松谷齊泰
西田和雅 (学内)
山田純嗣

※1 学校法人の決議機関は理事会であり、私立学校法は、「学校法人に理事をもって組織する理事会を置く。」「理事会は学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。」としています。理事は理事会に参画し、学校法人の業務を決めていきます。

※2 監事は、理事と同じように学校法人の役員となっています。監事は監査機関であって、①学校法人の業務、②学校法人の財産の状況を監査すること等が主たる職務とされています。そのほか、監査報告書の作成、学校法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べることその職務とされています。監事は、評議員会の同意を得て理事長が選任します。また、監事は、監査の公正を保つために、理事、評議員又は学校法人の職員と兼ねてはならないこととされています。

※3 評議員会は、学校法人の重要事項について、理事長から意見を求められ、理事長に対して意見を述べる諮問機関としての役割があります。予算の決定、基本財産の処分、寄附行為の変更等の重要案件については、理事長はあらかじめ評議員会から意見を聞かなければならないこととされています。

Ⅰ土地と建物(平成30年3月31日現在)

土地面積	
大学	302,216.63㎡
高等学校・中学校	45,791.00㎡
その他(職員住宅等)	4,908.08㎡
土地面積総合計	352,915.71㎡

建物面積	
大学	148,682.98㎡
高等学校・中学校	18,908.58㎡
その他(職員住宅等)	1,624.75㎡
建物面積総合計	169,216.31㎡

大学・大学院・高等学校・中学校基本データ

Ⅰ学位授与 学士

学 部	学 士 (分野)	学 科	
文 学 部	学士 (文 学)	337名	日本語日本文学科 75名
	学士 (社会学)	101名	英語英米文学科 93名 社会学科 101名 人間科学科 104名 歴史文化学科 65名
理 工 学 部	学士 (理工学)	78名	物理学科 46名
	学士 (理 学)	65名	生物学科 44名 機能分子化学科 53名
経 済 学 部	学士 (経済学)	371名	経済学科 371名
法 学 部	学士 (法 学)	388名	法学科 388名
経 営 学 部	学士 (経営学)	366名	経営学科 366名
知 能 情 報 学 部	学士 (工 学)	112名	知能情報学科 112名
	学士 (情報学)	0名	
マ ネ ジ メ ン ト 創 造 学 部 フロンティアサイエンス学部	学士 (マネジメント)	184名	マネジメント創造学科 184名
	学士 (理工学)	36名	生命化学科 36名

修士

研究科	修 士 (分野)	専 攻	
人 文 科 学 研 究 科	修士 (文 学)	8名	日本語日本文学専攻 1名
	修士 (社会学)	2名	英語英米文学専攻 1名 応用社会学専攻 2名 人間科学専攻 6名
自 然 科 学 研 究 科	修士 (理 学)	32名	物理学専攻 11名
	修士 (工 学)	2名	化学専攻 10名 生物学専攻 11名 知能情報学専攻 2名
社 会 科 学 研 究 科	修士 (経済学)	2名	経済学専攻 2名
	修士 (経営学)	3名	経営学専攻 3名
フロンティアサイエンス研究科	修士 (理工学)	12名	生命化学専攻 12名

博士

研究科	博 士 (分野)	専 攻	
人 文 科 学 研 究 科	博士 (文学)	2名	人間科学専攻 2名
自 然 科 学 研 究 科	博士 (理学)	0名	生命・機能科学専攻 0名
	博士 (情報学)	0名	知能情報学専攻 0名
社 会 科 学 研 究 科	博士 (経営学)	0名	経営学専攻 0名
フ ロ ン テ ィ ア サイエンス研究科	博士 (理工学)	0名	生命化学専攻 0名

専門職

研究科	学 位 (専門職)	専 攻	
法 学 研 究 科	法務博士(専門職) 11名	法務専攻	11名

Ⅰ留学者数

	主な国際交流・留学支援プログラム	派遣人数	受入人数
中長期 留学 プログラム	交換留学	1年 13 半期 5	10 (*23) 0 (*5)
	語学プラス交換留学(語学+専門科目)	経営学部グローバル・ビジネス・コース	3 0
	奨励留学	5	—
	認定校留学	77	—
	マネジメント創造学部特別留学コース	4	—
	甲南大学イヤー・イン・ジャパンプログラム	24	—
小計	—	33	
私費外国人留学生・研究生	小計	131	43
その他	海外インターンシップ・海外企業訪問(マネジメント創造学部)	—	2
	海外フィールドワーク・海外ボランティア(マネジメント創造学部)	5	—
	エリアスタディーズ(短期留学体験型プログラム)	18	—
	海外ボランティア	138	—
	日本語教授法実習	17	—
	海外語学講座	9	—
	夏期日本語集中講座	59	—
	協定校プログラム	—	21
	小計	0	25
	合計	246	46
	合計	377	91

高等学校・中学校

	主な留学派遣・受入先	派遣人数	受入人数
交換留学	イギリス	—	4
	オーストラリア	2	—
	アメリカ(ハワイ)	2	2
	ニュージーランド	1	2
	カナダ	2	—
グローバル・スタディ・プログラム	アメリカ	3	—
	オーストラリア	3	—
	イギリス	4	—
グローバル・ファウンデーション 英語研修	ニュージーランド	4	—
	オーストラリア	17	—
	オーストラリア	6	20
グローバル・スタディ・ツアー	シンガポール	17	—
合計		61	28

※は、甲南大学イヤー・イン・ジャパンプログラム33名中の交換留学者数

Ⅲ 法人の概要

Ⅰ 入学試験状況

大学

学部・学科	一般入試			センター利用入試			その他の入試			
	志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	日本語日本文学科	528	524	95	284	281	58	87	87	40
	英語英米文学科	513	508	150	217	217	70	89	89	50
	社会学科	769	760	115	434	430	71	98	98	49
	人間科学科	737	719	135	347	339	76	102	102	46
	歴史文化学科	450	443	80	340	336	48	51	51	31
	小計	2,997	2,954	575	1,622	1,603	323	427	427	216
理工学部	物理学科	488	475	149	158	158	43	36	36	25
	生物学科	430	411	131	132	128	33	33	32	19
	機能分子化学科	413	400	192	135	131	40	31	30	23
	小計	1,331	1,286	472	425	417	116	100	98	67
経済学部	2,525	2,477	432	1,565	1,548	350	350	348	195	
法学部	2,039	1,984	432	1,246	1,227	415	261	260	166	
経営学部	2,333	2,286	340	1,165	1,148	238	557	555	241	
知能情報学部	570	544	220	301	292	102	80	79	55	
マネジメント創造学部	849	840	208	336	327	94	255	250	114	
フロンティアサイエンス学部	265	261	74	217	213	79	56	55	19	
合計	12,909	12,632	2,753	6,877	6,775	1,717	2,086	2,072	1,073	

大学院(修士課程)

課程	研究科・専攻	志願者数	受験者数	合格者数
人文科学	日本語日本文学専攻	1	1	0
	英語英米文学専攻	5	5	4
	応用社会学専攻	4	4	3
	人間科学専攻	23	22	10
	小計	33	32	17
自然科学	物理学専攻	10	8	7
	化学専攻	14	14	14
	生物学専攻	12	10	10
	知能情報学専攻	3	3	3
	小計	39	35	34
社会科学	経済学専攻	9	8	5
	経営学専攻	1	1	0
	小計	10	9	5
フロンティアサイエンス	生命化学専攻	18	18	14
合計		100	94	70

大学院(博士後期課程)

課程	研究科・専攻	志願者数	受験者数	合格者数
人文科学	日本語日本文学専攻	0	0	0
	英語英米文学専攻	1	1	1
	応用社会学専攻	0	0	0
	人間科学専攻	1	1	1
	小計	2	2	2
自然科学	物理学専攻	3	3	3
	生命・機能科学専攻	2	2	2
	知能情報学専攻	0	0	0
	小計	5	5	5
社会科学	経営学専攻	2	2	2
フロンティアサイエンス	生命化学専攻	1	1	1
合計		10	10	10

大学院(専門職学位課程)

専攻	志願者数	受験者数	合格者数
法科大学院(法学研究科法務専攻)	166	133	64

高等学校

募集形態	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
アドバンスト・コース	47	47	40	34	1.2
一般・推薦入試併願(上記に含む)	(7)	(7)	(7)	(1)	

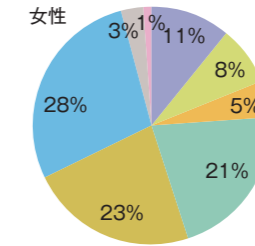
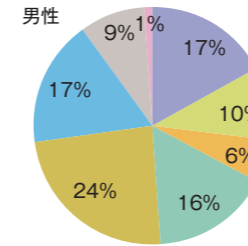
中学校

募集形態	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
I期午前入試	131	129	103	96	1.3
I期午後入試	230	225	137	24	1.6
II期入試	251	113	65	15	1.7
III期入試	143	54	38	19	1.4
甲南小学校	25	25	25	25	-
合計	780	546	368	179	-

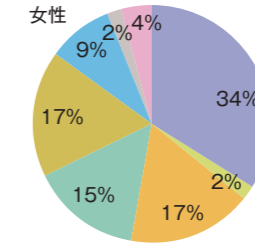
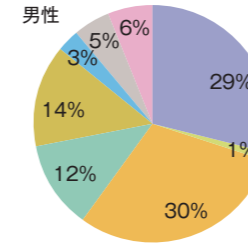
Ⅱ 大学(学部学生)の就職状況

業種別就職状況

<文系>



<理系>



規模別就職状況

従業員数	文系			理系			全体		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
3,000人以上	24%	27%	26%	11%	12%	12%	18%	20%	19%
1,000人以上	27%	24%	25%	28%	16%	25%	28%	20%	24%
500人以上	18%	18%	18%	29%	28%	28%	23%	23%	23%
500人未満	31%	31%	31%	32%	44%	35%	31%	37%	34%
総計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

主な就職先

男性

就職先
株式会社大林組
日本製粉株式会社
パナソニック株式会社
三菱ケミカル株式会社
株式会社ロッテ
株式会社ワコールホールディングス
西日本電信電話株式会社
ヤフー株式会社
三菱商事株式会社
三菱食品株式会社
オリックス株式会社
東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社
日本生命保険相互会社
株式会社みずほフィナンシャルグループ
株式会社三井住友銀行
大阪国税局
国土交通省国土技術政策総合研究所

女性

就職先
三井住友ファイナンス&リース株式会社
テルモ株式会社
株式会社バンダイナムコエンターテインメント
日立マクセル株式会社
富士通株式会社
ローム株式会社
株式会社ウェザーニューズ
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ関西
全日本空輸株式会社
アストラゼネカ株式会社
因幡電機産業株式会社
オリックス株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
野村證券株式会社
株式会社三井住友銀行
株式会社三菱UFJ銀行
兵庫県庁

Ⅲ 法人の概要

Ⅰ学生・生徒数(平成29年5月1日現在)

大学

学部	入学定員	編入定員	収容定員	実員
文学部	400	10	1,620	1,911
理工学部	155	—	620	703
経済学部	345	—	1,395	1,619
法学部	345	—	1,395	1,684
経営学部	345	—	1,380	1,649
知能情報学部	120	—	480	552
マネジメント創造学部	180	—	720	793
フロンティアサイエンス学部	45	—	150	169
合計	1,935	10	7,760	9,080

高等学校・中学校

学校	入学定員	収容定員	実員
高等学校	200	600	563
中学校	175	525	530

大学院

研究科	課程	入学定員	収容定員	実員	課程	入学定員	収容定員	実員
人文科学研究科	修士	26	52	23	博士後期	10	30	15
自然科学研究科	修士	35	70	62	博士後期	8	24	11
社会科学研究科	修士	20	40	17	博士後期	3	9	8
フロンティアサイエンス研究科	修士	10	20	21	博士後期	1	3	3
合計		91	182	123		22	66	37

専門職大学院

研究科	入学定員	収容定員	実員
法学研究科	20	60	54
合計	20	60	54

Ⅱ卒業生累計数(平成30年3月31日現在)

旧制中学校・旧制高等学校	1,889
新制高等学校	11,896

学部	卒業生累計数
学部	102,629
大学院(修士)	2,511
大学院(博士)	148 ※
専門職大学院	609

※うち44件は論文博士

Ⅲ専任教職員数(平成29年5月1日現在)

大学・大学院・センター・研究所

	文学部	理工学部	経済学部	法学部	経営学部	知能情報学部	創造マネジメント学部	フロンティアサイエンス学部	スポーツ・健康科学研究センター	国際言語文化センター	共通教育センター	国際交流センター	教職教育センター	先端生命科学研究所	法科大学院	学生相談室	合計
教授	45	27	22	18	22	10	10	8	4	9	6	0	1	1	12	1	196
准教授	8	6	3	5	3	9	6	3	3	4	3	0	0	1	2	0	56
講師	0	1	1	1	0	0	8	2	0	5	0	3	0	2	0	0	23
助教	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
合計	53	37	26	24	25	19	24	14	7	18	9	3	1	4	14	1	279

※実務家教員を含む。

高等学校・中学校

校長	教諭	契約	養護教諭	司書教諭	合計
1	53	3	1	1	59

職員

専任	嘱託	契約	合計
160	33	16	209

Ⅳ事務組織図(平成30年3月31日現在)

学 園	経営企画室		
	スポーツ強化支援室		
	総務部	総務課 人事課	
	財務部		
	管財部		
	情報システム室		
	広報部	広報課 甲友課	
	学園振興募金室		
	ネットワークキャンパス東京事務所		
	監査部		
	大 学	学長室	
		教務部	
		学生部	
		キャリアセンター	
		図書館事務室	
		入試センター	
		教育学習支援センター事務室	
		法科大学院事務室	
		文学部事務室	
		理工学部・知能情報学部事務室	
経済・法・経営学部合同事務室			
西宮キャンパス事務室			
ポートアイランドキャンパス事務室			
国際言語文化センター事務室			
スポーツ・健康科学教育研究センター事務室			
共通教育センター事務室			
国際交流センター事務室			
教職教育センター事務室			
カウンセリングセンター・人間科学研究所事務室			
フロンティア研究推進機構事務室			
地域連携センター事務室			
高等学校・中学校	高等学校・中学校事務室		